

平成22年度保健体育科授業充実事業

中学校保健体育科授業実践事例（球技・武道）

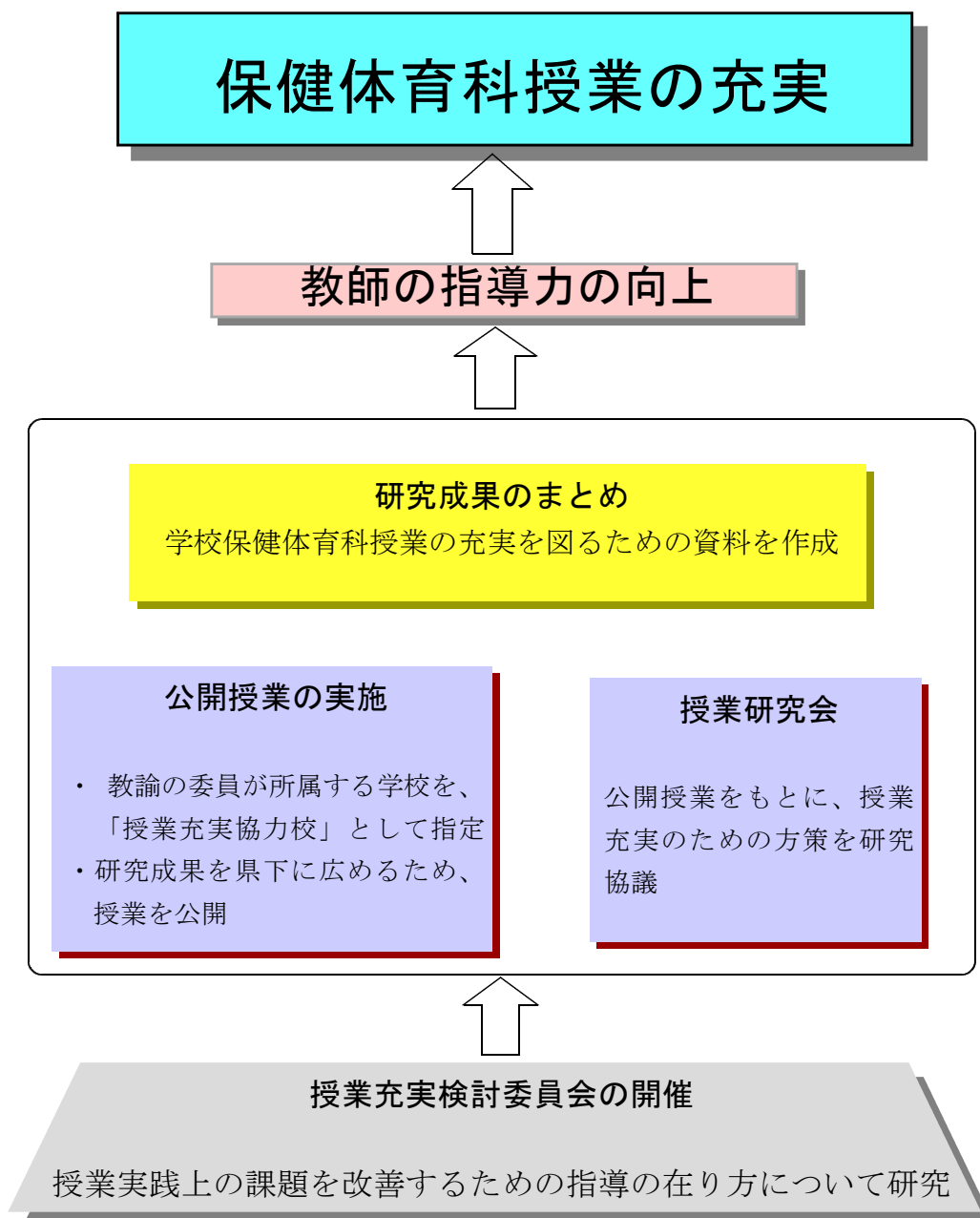


群馬県教育委員会
（スポーツ健康課）

1 保健体育科授業充実事業の概要

授業充実事業とは

中学校保健体育科授業の充実を図るため、授業実践上の課題を明らかにし、課題解決のための方策等を具体化することで、教師の指導力の向上に資する。



2 実践事例

実践事例 1

<参考資料>

- ①学習指導案
- ②学習カード等

期 日：平成22年10月19日（火）
会 場：甘楽町立第一中学校
単 元：球技 ゴール型(バスケットボール)
学 年：2年女子
授業者：白石 美和子 教諭

実践事例 2

<参考資料>

- ①学習指導案
- ②学習カード等

期 日：平成22年11月29日（月）
会 場：館林市立第二中学校
単 元：武道（柔道）
学 年：2年男子
授業者：高松 好則 教諭

平成22年度授業協力校及び授業充実推進員

甘楽町立第一中学校 白石 美和子 教諭

館林市立第二中学校 高松 好則 教諭

平成22年度授業充実検討委員

後藤やよい（西部教育事務所）

三木 保広（甘楽町教育委員会）

野村 達之（東部教育事務所）

征矢 伊照（館林市教育委員会）

小曾根一広（スポーツ健康課）

[参考資料]

これからの学習評価について【中学校保健体育】

評価規準作成のための参考資料【中学校保健体育】

保健体育科学習指導案

平成22年10月19日（火）第5校時（体育館）
2学年1・2組女子（32名） 指導者 白石美和子

【授業改善の視点】

オープンスペースを意識した班練習やタスクゲームを取り入れることで、仲間と連携して、空間に走り込むなどの動きができ、ボールを上手に回しながら攻撃することができるであろう。

1. 単元名 球 技 バスケットボール

2. 考 察

(1) 生徒の実態（1組16名 2組16名 計32名）

○バスケットボールについて、単元前にアンケートを行った。結果は以下の通りである。

●バスケットボールは好きか。

	主な理由（複数回答あり）
好き (31%)	・シュートが入ると嬉しいから（19名） ・チームプレーが楽しいから（11名）
どちらかというが好き (63%)	・今までの授業が楽しかったから（7名） ・協力してできるから（4名）
どちらかという嫌い (6%)	・ドリブルやシュートが難しいから（3名） ・知らないルールがあるから（2名）
嫌い (0%)	・接触プレーが嫌だから（1名） ・走るのがきついから（1名）

●バスケットボールで「楽しい」と思ったことはあるか。それはどんな時か。

ある 31名 ない 1名

＜主な理由（複数回答あり）＞

- ・シュートが入った時（29名）
- ・勝てた時（9名）
- ・パス回しがうまくいった時（8名）
- ・協力し合えた時（5名）
- ・声をかけあった時（5名）
- ・パスカットした時（4名）

●バスケットボールで「つまらない」、「いやだ」と思ったことはあるか。それはどんな時か。

ある 19名 ない 13名

＜主な理由（複数回答あり）＞

- ・ボールが自分に回ってこない時（13名）
- ・シュートが決められない時（4名）
- ・ワンマンなプレーをしている人がいる時（3名）

●バスケットボールの授業でどんなプレー（技能）を身につけたいか。（複数回答あり）

- ・ドリブルが上手になりたい（16名）
- ・ミドル（ロング）シュートを決めたい（13名）
- ・シュート率を上げたい（11名）
- ・パス回しが上手になりたい（10名）
- ・ドリブルシュートができるようになりたい（7名）
- ・パスカットをしたい（5名）

●バスケットボールで、チームで行ったプレー（集団的技能）で、できてうれしかったことはどんなことか。（複数回答あり）

- ・連携したプレーでシュートが決まった（18名）
- ・チームでいいパスが回った（13名）
- ・速攻ができた（4名）
- ・マンツーマンディフェンスがしっかりとできた（4名）
- ・スムーズな流れでシュートが決まった（4名）
- ・ノーマークが作れた（2名）
- ・自分のパスが点に結びついた（1名）

アンケート結果から、個人的技能として、「シュートを決める」ことで、楽しさを感じている生徒が大半を占めていることがわかる。また、「ゴールから離れた位置でのシュートを決めたい」、「相手をドリブルでかわしたい」など技術的にも今まで学習してきたよりもさらに高度なものを求めていることも感じられる。また、集団的 skill として、パスをうまく回したり、チーム内の連携プレーに対して充実感を感じていることがわかる。そして、パスを上手に回す＝「協力性」と感じている生徒も多く、チーム内で協力しながら自分の技能を高めたいと考えていることが言える。

○体育の授業の「診断的授業評価」は以下の通りである。

項目名	合計得点	質問項目	得点	質問項目	得点
たのしむ (情意目標)	11.96 ————— (0)	楽しく勉強	2.53	丈夫な体	2.31
		精一杯の運動	2.34	明るい雰囲気	2.47
		練習時	2.31		
できる (運動目標)	10.31 ————— (0)	運動の上達	2.44	できる自信	1.91
		運動の有能感	1.59	自発的運動	2.25
		授業前の気持ち	2.13		
まなぶ (認識目標)	13.34 ————— (+)	応援	2.88	作戦を立てる	2.94
		他人を参考	2.72	友人・先生の励まし	2.53
		積極的発言	2.28		
守る (社会的行動目標)	14.59 ————— (+)	ルールを守る	2.91	自分勝手	2.97
		勝つための手段	2.88	勝負を認める	2.91
		約束ごとを守る	2.94		

上記の診断的授業評価の結果から、「まなぶ」「守る」についての各項目において全体的に数値が高い。このことから、ルールを守って仲間と共に協力して活動していることが分かる。しかし、「できる自信：少し難しい運動でも練習するとできるようになる自信があります」や「運動の有能感：運動が上手にできるほうだと思います」の項目では、低い数値を示している。この結果から、運動に対して自信を持ってない生徒も多く、練習しても技能面の高まりに不安を持っていると感じていると言えるので、授業の中で「できる喜び」を感じさせ、自信につながるような指導や支援を心掛けていきたい。

【関心・意欲・態度】

素直で、前向きな気持ちを持って活動できる集団である。しかし、リーダーとして、班のメンバーを率先して引っ張ったり、自分たちから雰囲気を作って活動したりすることが苦手であるという現状もある。アンケート調査では、最も好きな保健体育の学習は「球技」であると回答した生徒が75%で、続いて「器械運動」「ダンス」であった。また、1年時のバスケットボールの授業では、班で作戦や練習方法を考え、勝つことを目標にし、とても楽しそうに活動している様子が見られた。

【思考・判断】

昨年度のバスケットボールの授業や今年度（1学期）のバレーボールの授業において、KJ法を取り入れながら、班の課題を絞り、練習やゲームに生かす授業を行った。班の課題について、多くの気づきが見られたが、その表現は具体性に乏しいものが多かった。また、班の課題を1～2つに絞ることはできるが、その課題に合った練習方法を選択するには、多くの支援を要した。

【技能】

運動部に所属している生徒が7割で、その中でも、県大会等で活躍している生徒も数名いる。文化部に所属している約3割の生徒も、進んで体を動かし、意欲的に活動できる生徒が多く、全体的に運動能力が高い集団である。現在、バスケットボールに所属している生徒はおらず、小学校時にミニバスケットボールクラブで活動していた生徒が3名いる。

昨年度の授業では、マンツーマンディフェンスを中心に学習をしたので、自分の守る相手をしっかりと決め、その相手を意識しながらディフェンスをすることができた。しかし、オフェンスに関しては、パスをもらう時にディフェンスをどうやってかわしてもらうか、ピボットを使いながら、どのタイミングで味方にパスを出すのかという、1対1の場面を意識しての学習が多かったので、集団的 skill をいかに身につけるかというのは、今年度の課題と言える。また、ゲームにおけるシュート率が低いので、練習の場を設ける必要がある。

【知識・理解】

ファウル・トラベリング・ダブルドリブル・ピボット・リバウンドなどの基本的なルールや用語については、小学校から学習してきているので、大半の生徒が理解しており、それに応じたプレーをすることができる。また、点数のつけ方など、ゲームの進め方について、ハンドボールと混同している生徒も多いので、今年度も主なルールやゲームの進め方について確認しながら学習する必要がある。

(2) 教材観

本単元は学習指導要領「体育分野 第1学年及び第2学年 2内容 E球技(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームができるようにする。ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前の攻防を展開すること」に当たるものである。

バスケットボールは、コート内で2チームが入り乱れながら、ドリブルやパスなどを使って相手の防御をかわしてシュートをし、一定時間内に得点を競い合うゴール型の競技である。また、「走る・止まる・跳ぶ・投げる」などの運動要素も必要になってくるため、敏捷性や巧緻性・瞬発力・持久力など総合的な身体能力が養えるスポーツでもある。また、スピード感あふれる球技であると共に、プレーヤーが攻守ともに激しく動くため、運動量も多いことも大きな特徴である。

また、バスケットボールにおけるゲーム中の動きは、ボールを持ったときの『ボール操作』と『ボールを持たないときの動き』に分けることができる。『ボール操作』については、パス、ドリブル、シュートがあり、この3つがバスケットボールにおける個人的基礎技能となる。この個人的基礎技能を向上させることで、ゲームを楽しむことができると共に、より高度なゲームへと発展できると考える。そして、『ボールを持たない動き』については、攻撃と守備が考えられるが、状況を判断して動いたり、集団としての動きが要求され、チームで作戦を考えたり、練習などの実践によって、それが成功したときの喜びを体験できるなど、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わうことができることもバスケットボールの大きな魅力であると考えられる。

また、練習やゲームの中で、審判やゲーム等の運営など分担した役割を果たしたり、互いに教え合ったりしながら、協力することの大切さを学ぶことができ、ルールを守って活動したり、勝負に対する公正な態度を学習させることにも適した教材であると考えられる。

(3) 教材の系統

○ゴール型の主な技の系統

	小学校5・6年	中学校1年 (昨年度学習内容)	中学校2年	中学校3年
個人的技能	<p>●ボールの操作</p> <ul style="list-style-type: none"> 投げる、受ける、運ぶといった基本的なボール操作。 ドリブルシュートを身につける。 	<p>●ボール操作</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的なパスやドリブルの技能を身につける。 ノーマークシュートを打つ。 ピポットターンをしてボールをキープする。 リバウンドを高い位置で取る。 	<p>●ボール操作</p> <ul style="list-style-type: none"> 得点しやすい空間にいる味方にパスを出す。 マークされていない味方にパスを出す。 状況に応じてドリブルとパスを使い分ける。 	<p>●安定したボール操作</p> <ul style="list-style-type: none"> コントロールしたシュートを打つ。 ディフェンスをかわすためのフェイントをする。 味方が操作しやすいパスを出す。
集団的技能	<p>●ゲームに慣れる</p> <ul style="list-style-type: none"> 攻め方の例示とその練習。 簡単な作戦を考えてゲームを行う。 	<p>●空間に走り込むなどの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ボールを受けることができる位置に動く。 <p>●マンツーマンディフェンスを意識した動き</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の相手を責任を持って守る。 ボールを持っている相手をマークする。 	<p>●空間に走り込むなどの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンスペースを意識した攻撃をする。 ゴール前の空いている場所に走り込む。 <p>●マンツーマンディフェンスを高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ボールとゴールを意識した場所に立つ。 	<p>●空間を作りだすなどの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴール前に広いスペースを作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れる。 パスを出した後に次のパスを受ける動きをする。 <p>●チームの特徴を生かしたディフェンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴール前の空いている場所をカバーする。

3. 目標

バスケットボールの特性に触れ、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによって、ゴール前での攻防を意識し、楽しさや喜びを味わいながらプレーすることができる。

4. 評価規準

観 点	おおむね満足できる状況
運動への 関心・意欲・態度	チームにおけるの自分の役割を自覚し、責任を果たしながら練習やゲームに取り組もうとする。
運動についての 思考・判断	課題解決に向けて、自分の考えを持ち、練習やゲームにおける動き方を工夫している。
運動の技能	基礎的・基本的な技能を伸ばし、ゲームで活用することができる。
運動についての 知識・理解	バスケットボールの特性を理解し、上達するための技術ポイントや競技のルールについて理解している。

5. 指導方針

○班編成については、スキルテスト等を参考にしながら、各チームの技能レベルが同じになるようにするために、1チーム8人の等質グループを4班編成し、班単位で練習やゲームを行わせる。

○個人的基礎技能を高めるために、単元の前半において、個人ドリル練習として、基礎的な『ボール操作』の復習及び身につけるべき技能（昨年度学習した個人技能を含む）6つを各30秒間で一斉に行わせる。

＜個人ドリル練習＞・・・その場で個人で一斉に行う。（計3分間）

<ul style="list-style-type: none"> ①ボールハンドリング（股下の8の字回し） ②ピボットターン ③ボール投げ上げ→ジャンプキャッチ ④V字ドリブル ⑤「トン（ドリブル）1・2」ドリブルシュート前の動作 ⑥低い位置でのドリブル（防御の手あり） 	}	各30秒×6種類
---	---	----------

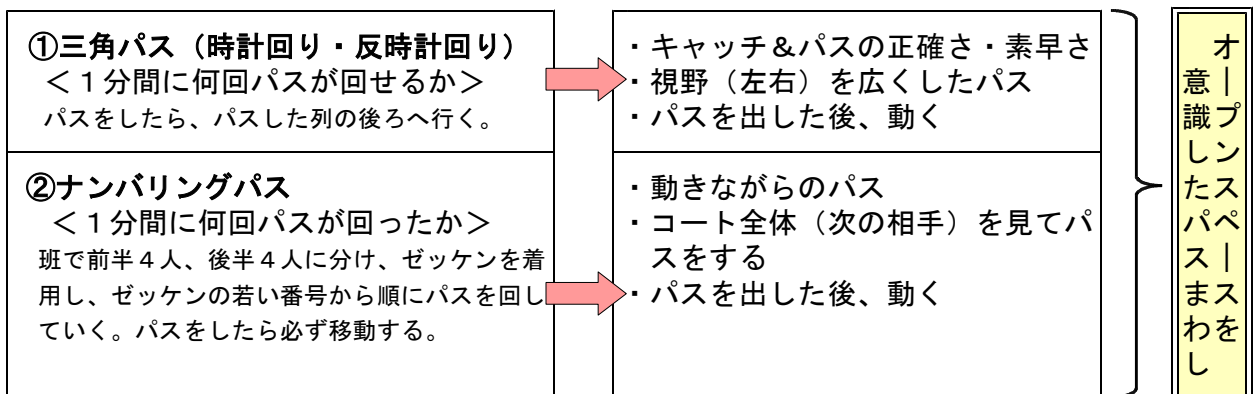
○生徒の単元前のアンケートから、「ドリブルシュートができるようになりたい」、「ミドルシュートを決めたい」などの自己の課題に応じた学習に取り組める時間を確保し、個人技能の向上を図っていく。

＜選択制個人練習＞・・・自分の練習したい場所で5分間練習する。

①ドリブルシュート ②リバウンドシュート ③ミドルシュート ④ドリブル練習
--

○声をかけ合いながら班で協力する雰囲気や養ったり、「ボール操作」の技能を高めたりするために、班対抗のドリルゲームやタスクゲームを積極的に取り入れる。

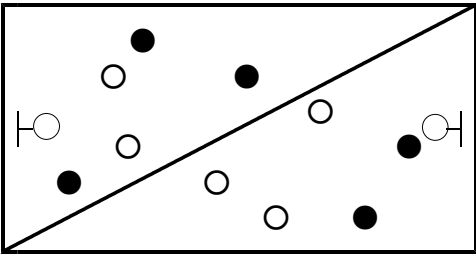
＜ドリルゲーム＞



<p>③ゴール下シュートゲーム <1分間に何回シュートが入るか> チーム全員が交代でゴール下からシュートを打つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール下のシュートの練習 どこをねらうとシュートが入りやすいかを考える 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">シュート力の向上</div>
<p>④パラシュートゲーム ゴール下からシュートを打つ。シュートが入ったら、得点板のところへ行き、点数をパラッとめくる。すぐにシュート位置まで戻り、シュートを打つ。班で前半4人、後半4人それぞれ1分間ずつ行い、合計の点数で勝敗を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール下のシュートの練習 どこをねらうとシュートが入りやすいかを考える ↑ チームでアドバイスし合う ・運動量の確保 	
<p>⑤ランニングシュート <1分間に何回シュート入るか> フリースローライン付近からゴール方向へパスを出し、シュートする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パスを出すタイミング・位置（リードパス） ・シュート率の向上 	

<タスクゲーム>

タスクゲームについては、オープンスペースが確保できるようにアウトナンバーで行う。また、「シュートチャンスがあったら打つ」という判断を多くさせたり、特定の生徒だけがシュートする状況をなくすために、従来のルール（点数）に幅を持たせる。

<p>①コート斜め&パスだけバスケ【3対2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻め3人、守り2人（3分ゲーム）。 ・動ける範囲は攻守ともにそれぞれコート斜め部分のみ。 ・ゲーム中にドリブルは使ってはいけない。 ・1回目のシュート決定は5点、2回目以降は1点。 ・攻めの3人全員がシュートを決めるとボーナス点10点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールをもらったらずぐにドリブルではなく、回りをよく見てノーマークやオープンスペースを探す習慣をつける ・得意な子がボールをキープすることがない ・パスでボールを運ぶ感覚を実感させる ・3対2の状況を作ることで、パス回しが楽にできる（オープンスペースが作りやすい） ・コートを斜めにすることで、サイドからの攻めも意識できる ・「シュートチャンスがあったら打つ」という判断を多くさせたり、特定の生徒だけがシュートする状況をなくすために、従来のルール（点数）に幅を持たせる ・相手より少ない人数でのディフェンスの動き方がわかる
<p>②コートを斜め（ドリブル可能）【3対2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻め3人、守り2人（3分ゲーム）。 ・動ける範囲は攻守ともにそれぞれコート斜め部分のみ。 ・1回目のシュート決定は5点、2回目以降は1点。 ・攻めの3人全員がシュートを決めるとボーナス点10点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリブル可能なので、ハーフコートでの「3対2」の練習における戦術をゲームで生かすことができる

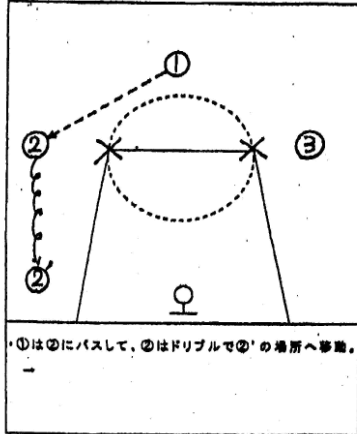
○単元計画の6時間目から10時間目における前半では、前述のように、声をかけ合いながら班で協力する雰囲気や「ボール操作」の技能を高めたりするために、ドリルゲームの時間を多く取り、後半ではオープンスペースを意識した動き（戦術）を考えさせるために班別練習の時間を多く取り入れていく。

○タスクゲームにおける作戦や班練習における戦術の確認等ができるように、作戦板（空き缶を活用し、授業に必要な用具も入れられるように工夫した）を有効に活用していく。

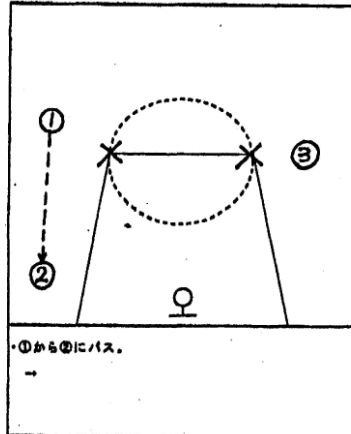
○授業での個人の気づきを付箋紙に書き、台紙に貼って掲示をすることで、気づきの共有化を図りながら、技能向上の手助けになるようにしていく。

○オープンスペースを意識した動き（戦術）を考える場として、班別練習で「3対2」を取り入れる。また、「空間を走り込む動き」に気づかせるために、3つの場面設定（戦術カード）を提示をし、班で話し合いながら戦術が考えられるようにする。

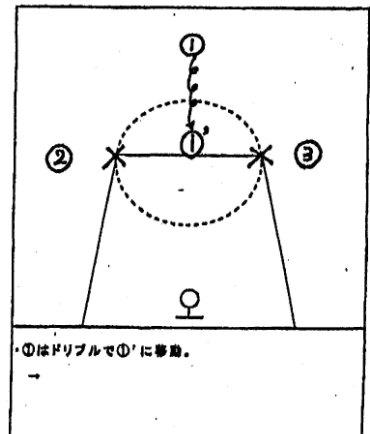
パターンA



パターンB



パターンC



○校内研修「言語活動の充実」の本単元の関連として、以下の2点を単元のねらいの達成に向けた言語活動の充実と捉え、実践していく。

- ①仲間との教え合いの場面で、動きの改善点を動きのポイントや行い方の知識をもとに、相手の理解しやすい言葉を用いて実際の動きの中で自分の意見を伝える。
 - ・選択制個人練習における動きの改善点を伝え合う場面。
 - ・ドリルゲームにおけるシュート力向上のための教え合いの場面。
- ②仲間との話し合いの場面で、練習やゲームにおける班または個人の課題や作戦について、仲間の意見を聞いたり、自分の意見を伝える。
 - ・班で「戦術カード」を用いて、有効な戦術について話し合う場面。
 - ・タスクゲームにおけるオープンスペースを意識した攻撃をするための話し合いの場面。

これらの場面を通じて、自分の思いや考えを仲間に「わかりやすく」伝えるといった言語活動を充実することにより、コミュニケーション能力が育まれ、仲間との相互理解を深めることにも繋がり、個人的技能および集団的技能が向上すると考える。

6. 単元計画の構造 (別紙「6 単元計画の構造図」参照)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
学習内容	オリエンテーション・試しゲーム	スキルテスト・グループピング	準備運動、今日の学習内容の確認													まとめのリーグ戦	
			個人ドリル練習	ドリルゲーム (班対抗)				班練習 3対2					チームの課題に 基づいた練習				
			選択制個人練習														
			ドリルゲーム (班対抗)	タスクゲーム 3対2 (オールコート斜め)				ゲーム (3対3、4対4) オールコート									
			タスクゲーム オールコート斜め &パスだけバスケ														
			戦術の復習・振り返り														
整理運動、次回課題等																	

7. 本時の学習 (全15時間予定 本時は 9/15時)

(1) 目標

空間に走り込む動きを取り入れながら、仲間と連携して攻撃することができる。

(2) 準備

ボール・点数板・ホイッスル・ゼッケン・デジタイマー、戦術カード (3つの場面設定)

班別グッズ缶（作戦ボード・筆記用具・付箋紙・ドリルゲーム記録表）、掲示物
 (3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	評価項目（評価方法）
<ul style="list-style-type: none"> ●準備体操 ●整列・点呼 ●本時の学習の進め方と学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ねらい> オープンスペースを見つけて攻撃してみよう！！ </div> <ul style="list-style-type: none"> ●ドリルゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ランニングシュート 	10	○本時の学習の進め方を提示し、自分たちで進んで活動できるようにする。 ○オープンスペースを使った攻撃のために ①どこにどのようなパスを出せばよいのか。 ②どこにどのように動くのが有効か。 を意識させるようにする。 ○声を出しながら、班で協力して活動できる雰囲気づくりに努める。 ○どこにパスを出したらよいかを考えさせながら練習させる。	
<ul style="list-style-type: none"> ●班別練習3対2（ハーフコート） <ul style="list-style-type: none"> ・戦術カード（3つの場面設定）を生かした練習を行う。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">課題解決</div>	10	○活動を通して、班の中での意見交流ができるように戦術に対する動き方の声掛けを積極的に行うようにする。 ○オープンスペースを使った攻撃のために <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・どこにどのようなパスを出せばよいのか。 ・どこにどのように動くのが有効か。 </div> を意識させるようにする。 ○スペースが有効に使えていない班は、ゆっくりと確認しながらプレーを行い、どのような攻撃が有効かについて考えさせる。	
<ul style="list-style-type: none"> ●タスクゲーム 活用 <コートを斜めにした3対2> <ul style="list-style-type: none"> ・攻め3人、守り2人 ・動ける範囲は攻守ともにそれぞれコート斜め部分のみ ・1回目のシュート決定は5点、2回目以降は1点、攻めの3人全員がシュートを決めるとボーナス点10点 ・3分×4ゲーム ・2ゲーム後作戦タイム3分 	20	○班別練習3対2（ハーフコート）での戦術が実践できるように、空間に走り込む動きを積極的にほめ認める。 【努力を要する生徒への支援】 ※「ディフェンスから離れる」、「パスを出したら空いている場所に移動する」ことを意識させる助言を行う。 ○仲間と連携して空間に走り込む動きに気づけるように、作戦ボードを活用しながら作戦を考えさせる。	【技能】 <おおむね満足> 空間に走り込んだり、パスを回したりしながら仲間と連携した攻撃をすることができる。（観察） <十分満足> 周囲を意識しながら空間に走り込んだり、パスを効果的に回したりしたりしながら、仲間と連携した攻撃することができる。（観察）
<ul style="list-style-type: none"> ●戦術の復習 習得 <ul style="list-style-type: none"> ・班で本時で身につけた戦術の復習を行う。 	5	○オープンスペースを使ったタスクゲームの攻撃の中で、「よくできたプレー」を再現したり、「課題の見つかった」プレーについてどのようにしたらよいかを考えさせたりする。	
<ul style="list-style-type: none"> ●本時の学習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習に関する「気づき」を付箋紙に書いて台紙に貼る。 ・整理運動 ・本時を振り返り、次時の課題を持つ。 ・片づけ 	5	○付箋紙に <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> オープンスペースを使った攻撃のために ・どこにどのようなパスを出せばよいのか。 ・どこにどのように動くのが有効か。 </div> について、自分の気づきを「○○の場面で」、「○○を」、「どのようにしたら」「どう（どのように）なった」という表現で具体的に書かせる。	【思考・判断】 <おおむね満足> 与えられた課題について、自分なりの考えを持っている。（観察、付箋紙） <十分満足> 与えられた課題について、課題解決に適した自分なりの考えを持っている。（観察、付箋紙）

6. 単元計画の構造図

水色部分は、2年生における学習目標である。

①単元名	中学校第2学年 球技「ゴール型」(バスケットボール)			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	評価規準	
②指導内容の概要	第1学年及び第2学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開できるようにする。また、球技の学習に積極的に取り組み、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること作戦などの話合いに参加しようとする。また、健康や安全に気を配るとともに、技術の名称や行い方を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。			準備運動、今日の学習内容の確認															まとめのリーグ戦	評価規準
③学習指導要領の内容(1・2年)	④学習指導要領解説の記載内容(1・2年)			整理運動、次回課題等																
⑤ポイント(生徒への声かけの仕方など)	⑥ポイント(生徒への声かけの仕方など)			⑦ポイント(生徒への声かけの仕方など)															主に観察による評価部分	
⑧ポイント(生徒への声かけの仕方など)	⑨ポイント(生徒への声かけの仕方など)			⑩ポイント(生徒への声かけの仕方など)																
(1)技能	<p>「(1)次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開できるようにする。ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること。」</p> <p>「ボール操作」とは、手を使ってボールを操作し、シュートやパスをしたり、ボールをキープすることなどである。</p> <p>＜例示＞ ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートすること</p> <p>・マークされていない味方にパスを出すこと。 ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと。</p> <p>・パスやドリブルなどでボールをキープすること。</p> <p>「空間に走り込むなどの動き」とは、攻撃の際のボールを持たないときに得点をねらってゴール前の空いている場所に走り込む動きや、守備の際に、シュートやパスをされないように、ボールを持っている相手をマークする動きのことである。</p> <p>＜例示＞ ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つこと。 ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くこと</p> <p>・ボールを持っている相手をマークすること。</p>			<p>パスを回す時、どんなパスがもらいやすいだろう。</p> <p>→ 基本的な技能の習得<技①></p> <p>→ 手だてを要する生徒の確認</p> <p>→ 得点しやすい空間にいる味方へパス <技②></p> <p>→ 状況に応じたパスやドリブルを使い分ける。<技①></p> <p>→ オープンスペースに動く<技③></p> <p>→ 得点をねらってゴール前の空いている場所に動く<技③></p> <p>→ 空いているスペースにどンドン動いてみよう。</p> <p>→ 相手マークする動き<技④></p> <p>→ ゴール・ボール・自分のマークする相手の位置を常に確認しながら動こう。</p>															<p>【運動の技能】</p> <p>①基本的なボール操作ができ、パスとドリブルを使い分けてプレーすることができる。</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③空間に走り込んだり、パスを回したりしながら仲間と連携した攻撃をすることができる。</p> <p>④ゴールとボールを意識して守ることができる。</p>	
(2)態度	<p>「(2)球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする。また、健康・安全に気を配ることができるようにする。」</p> <p>・規定の範囲で勝敗を競うといったルールや相手を尊重するといったマナーを守ったり、相手の健闘も認めたりして、フェアなプレイに取り組もうとすること。</p> <p>・練習やゲームの際に、用具の準備や後片づけ、記録や審判などの分担した役割に積極的に取り組もうとすること。</p> <p>・チームなどの課題の解決に向けて、自らの考えを述べるなど積極的に話合いに参加しようとする。</p> <p>・仲間の学習を援助しようとする。</p> <p>・体調の変化などに気を配ること、ボールなどの用具の扱い方やゴールの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること、技の難易度や自己の技能・体力の程度にあった運動をすること。</p>			<p>仲間の動きを声に出して賞賛し合おう。</p> <p>→ ゲームや練習に進んで取り組み、ルールやマナーを守ろうとする。<関・意・態①></p> <p>→ 準備や片づけを行ったり、分担した役割を果たそうとする。<関・意・態②></p> <p>→ 自分の考えを持って話合いをする。<関・意・態③></p> <p>自分の考えを持って、話合いに参加することは、チームワーク力の向上、技能の向上につながる。</p>															<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>①声を出し、仲間を賞賛したり、励ましたりしようとする。</p> <p>②準備や片づけ、審判などの分担した役割に取り組もうとする。</p> <p>③チームの話合いに進んで参加しようとする。</p>	
(3)知識・思考・判断	<p>○知識</p> <p>「技術の特性や成り立ち」 ・個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団で得失点をめぐる攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことのできる運動であること。</p> <p>「技術の名称や行い方」 ・バスケットボールの技術や戦術、作戦の名称やその具体的な行い方や活用方法を理解できるようにすること。</p> <p>「関連して高まる体力」 ・球技は、それぞれの型や運動種目で主として高まる体力要素が異なることを理解できるようにすること。</p> <p>「～など」 ルール、審判や運営の仕方がありことを理解できるようにすること。</p> <p>○思考・判断 ＜例示＞ ・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身につけるための運動の行い方のポイントを見付けること。</p> <p>・自己やチームの課題を見付けること。</p> <p>・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。</p> <p>・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けること。</p> <p>・学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめること。</p>			<p>バスケットボールに用いられる技術や戦術の名称を挙げてみよう。</p> <p>→ バスケットボールの技術や作戦・作戦の名称が言える <知理①></p> <p>→ 関連して高まる体力を言える<知理②></p> <p>→ バスケットのルールや審判・運営の仕方が言える <知理③></p> <p>ゲームの中でルールを意識しながらプレーしよう。</p> <p>→ 運動の行い方のポイントを見付ける<思判①></p> <p>→ ポール操作やボールを持たない動きについてのポイントを見付ける<思判③></p> <p>→ 自己の課題にあった練習方法を選ぶ<思判②></p> <p>→ チームの課題に基づいた練習方法を見付ける<思判②></p> <p>→ 安全面で気を配ることは何だろう。</p> <p>→ 安全に練習やゲームを行う。</p>															<p>【知識・理解】</p> <p>①バスケットボールの技術や戦術の名称について、言ったり、書き出したりしている。</p> <p>②バスケットボールの特性や学習の進め方について、言ったり、書き出したりしている。</p> <p>③ルールや審判法について、言ったり書き出したりしている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>①自己やチームの課題となる点を見付けている。</p> <p>③与えられた課題について、自分なりの考えを持っている。</p> <p>②自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</p>	

8、まとめ

1) 授業研究会より

- ・タスクゲームによって、数的優位な状況を作ったり、コートを区切ったりすることは、オープンスペースの意識づけになっていた。
- ・運動量の確保と短時間での話し合い活動との時間配分のバランスが取れており、生徒も一生懸命に活動している姿が見られた。
- ・付箋紙を活用しての振り返りがよくできており、付箋紙に書かれた内容で思考判断が見取れるような配慮がなされていた。
- ・オープンスペースを意識させるためには、DFが必ずボールチェックに入るという約束をつけることが最低限必要である。また、ボーナス点がオープンスペースの活用には有効でなくなってしまった。
- ・2年次の目標である「空間に走り込むなどの動き」から、3年次における「オープンスペースを作る」ことに結びつけて、どのように指導していくかが課題である。

2) 授業実践後の「診断的授業評価」より

項目名	合計得点		質問項目	得点		質問項目	得点	
	授業前	授業後		授業前	授業後		授業前	授業後
たのしむ (情意目標)	11.96	12.41 ↑	楽しく勉強	2.53	2.63 ↑	丈夫な体	2.31	2.28 ↓
	15.00		精一杯の運動	2.34	2.44 ↑	明るい雰囲気	2.47	2.59 ↑
			練習時	2.31	2.47 ↑			
できる (運動目標)	10.31	10.50 ↑	運動の上達	2.44	2.41 ↓	できる自信	1.91	2.16 ↑
	15.00		運動の有能感	1.59	1.63 ↑	自発的運動	2.25	2.28 ↑
			授業前の気持ち	2.13	2.03 ↓			
まなぶ (認識目標)	13.34	13.25 ↓	応援	2.88	2.94 ↑	作戦を立てる	2.94	3.00 ↑
	15.00		他人を参考	2.72	2.66 ↓	友人・先生の励まし	2.53	2.50 ↓
			積極的発言	2.28	2.16 ↓			
守る (社会的 行動目標)	14.59	14.63 ↑	ルールを守る	2.91	3.00 ↑	自分勝手	2.97	3.00 ↑
	15.00		勝つための手段	2.88	2.81 ↓	勝負を認める	2.91	2.84 ↓
			約束ごとを守る	2.94	2.97 ↑			

- ・本実践で課題としていた「できる（運動目標）」についてのポイントが授業前よりも上がり、「できる自信：少し難しい運動でも練習するとできるようになる自信があります」、「運動の有能感：運動が上手にできるほうだと思います」の項目についてもポイントが上がった。これについては、単元前半に選択制個人練習や個人ドリル練習を取り入れ、一人一人がボールに触れる機会も多くしたことで、単元前は、運動（バスケットボール）に対して自信を持てなかった生徒が、本実践を通して、技能面の高まりを感じ、授業の中で「できる喜び」を少なからず感じる事ができたのではないかと考える。
- ・「たのしむ」についても、授業前よりもポイントが上がった。授業において、声をかけ合いながら班で協力する雰囲気を養ったり、「ボール操作」の技能を高めたりするために、ドリルゲームやタスクゲームなどを取り入れてきたが、そういった活動を通して、生徒の運動に対する興味・関心・意欲を高めることができ、明るい雰囲気づくりにもつながったのではないかと考える。
- ・「まなぶ」については、ポイントが下がり、「他人を参考」「友人・先生の励まし」「積極的発言」についてのポイントも下がった。授業において、作戦会議などの話し合いの場面を設定したり、付箋紙を活用して、自分の「気づき」の交流も図ったが、話し合いにおいては、「何を話し合うか」というポイントを明確にしたり、リーダーだけでなく、チームのメンバーが互いに意見を言い合える場の設定ということも課題としてあげられる。また、付箋紙についても、どんなポイントについて書かせるかということについても明確にする必要があると感じた。話し合いにおいても書くことにおいても、この「ポイント」を明確にすることにより、時間の効率化も図れ、また、視点等も共通しているため、他人の意見もより参考になると考える。今後も「運動する」「書く」「話し合う」などの活動のバランスを取っていくことが重要であると考えられる。

【掲示物】

★本時の流れと意識するポイント



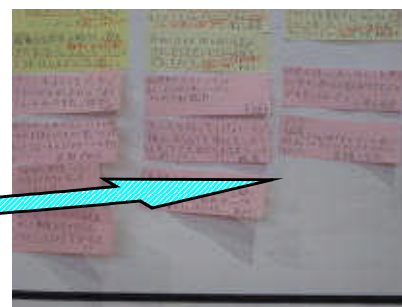
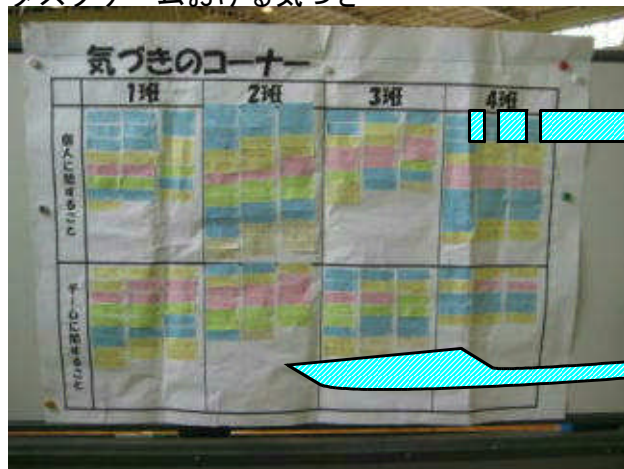
★戦術カード



★授業で気づいたことを付箋に書いたものを台紙に貼る
選択制個人練習における気づき



タスクゲームにおける気づき



【授業の様子】

★学習の進め方の提示



★ドリルゲーム（ランニングシュート）



★班別練習 3対2



★タスクゲーム（コートを斜めにした3対2）



★作戦タイム



保健体育科学習指導案

平成 22 年 11 月 29 日（月）第 5 校時
2 年 1，2 組（男子 32 名）
場所 武道館 指導者 高松好則

授業の視点

投げ技を習得していく場面で、アドバイスの視点を明確にした学び合いをすることは、技の習得に有効であったか。

1 単元名 武道（柔道）

2 単元の考察

（1）生徒の実態（男子 32 名）

本単元における生徒の実態を授業における教師の観察や事前の調査によって次のようにとらえた。

< 関心・意欲・態度 >

事前のアンケートでは約 70 % の生徒が「柔道の授業に興味がある」と答えている。また、昨年度の柔道の授業後の感想として、約 90 % 以上の生徒が「楽しく意欲的にできた」と答えている。柔道の授業で何を学びたいかについては、第一希望として約 90 % 以上の生徒がいろいろな投げ技の習得と答えており、第二希望としては試合に勝つことをあげている生徒が多い。また、相手を思いやる心を学びたいと考えている生徒も約 50 % おり、投げ技の習得を目的としている生徒が多いが、礼法や思いやりなどの精神面の修養が図れると考えている生徒が多いことも分かる。

全体的に、柔道の学習への意欲が高く積極的に技能を高めようとする姿勢が感じられる。

< 思考・判断 >

効果的に投げ技を習得する方法の問いに対しては、「繰り返しの練習」や「腕の筋力をつける」と答える生徒がほとんどであった。生徒の意識の中では、柔道の投げ技は主に腕や上半身の力が必要と考えているようで、「崩し」や「体さばき」の意識は低い。

< 技能 >

昨年度の授業を通して「受け身」や「固め技」を学習してきている。受け身では「後ろ受け身」「横受け身」「前回り受け身」を毎時間練習することによっておおむね身に付けてきている。しかしながら、「前回り受け身」の定着度は低く、横回転や足が重なってしまう生徒がいる。固め技では「けさ固め」「横四方固め」「上四方固め」を簡易試合などの実践を通してかけ方、逃げ方など学んできている。

投げ技については 2 年次の意識付けとして、膝立ち姿勢からの「支えつり込み足」を学習してきている。

< 知識・理解 >

柔道が日本古来からのものであることや、「礼に始まり礼に終わる」など礼法を重んじていることなどを昨年度の学習から理解している。また、知っている技の名称を書きなさいという問いの回答では「背負い投げ」「一本背負い」などが圧倒的に多く、ついで昨年度参考として学習した「支えつり込み足」を書く生徒が多かった。本時に学習する投げ技「体落とし」と書く生徒は 3 名と少なかった。

（2）教材観

① 一般的特性

【機能的特性】（運動を行う者や欲求や必要を充足する機能に着目）

- ・自分の体格や体力に応じて、相手の動きを利用しながら、投げたり抑え込んだりすることで楽しさを味わうことができる。
- ・自分の技を工夫し効果的なものにするために、努力した充実感や技が決まったときの爽快感や喜びなどを味わうことができる。

【構造的特性】（運動の技術的構造に着目）

- ・基本動作（崩し、体さばき、受け身など）を基に、投げ技、固め技が構成されている。
- ・技能の中心は、相手の動きに対応する対人的技能で、相手を崩し、身体的位置、力量、方向に応じて合理的に技を施すものである。

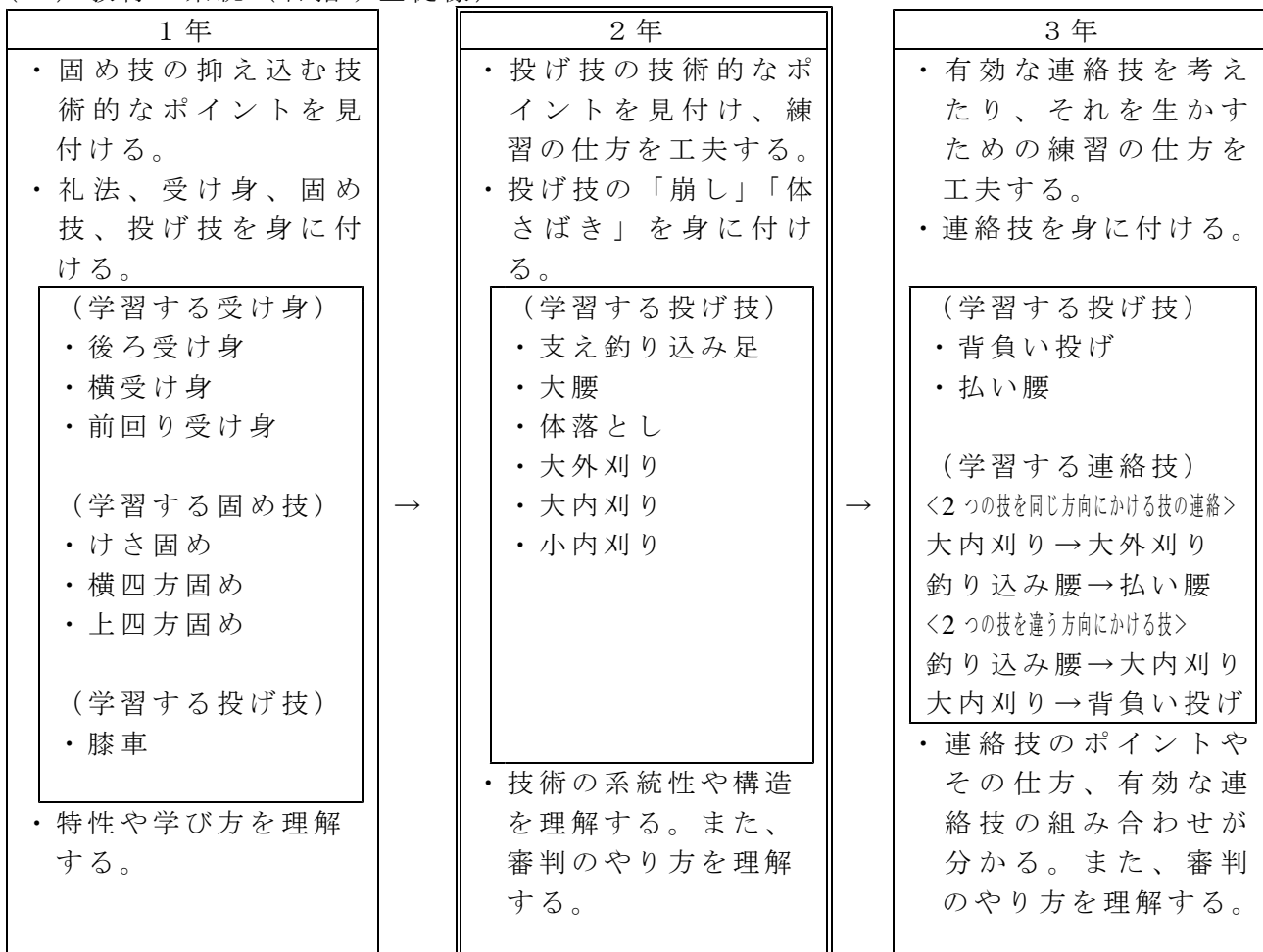
【効果的特性】

- ・相手と直接的に格闘するために、筋力、瞬発力、持久力、調整力、柔軟性などを養うことができる。
- ・相手と接触し競い合うところから礼儀や相手を尊重する態度、克己心、集中力をつくす態度が養われ、望ましい社会生活の習慣や態度が身に付く。

②生徒の柔道に対する感じ方・考え方

生徒が柔道の学習をしていて楽しいと感じるときは、「柔道特有の礼儀作法がスムーズにできたとき」や「受け身が上手にできたとき」「相手をきれいに投げることができたとき」「自分より体格がいい相手や力が強い相手を投げたり抑え込んだりできたとき」があげられる。逆に柔道の学習をしていてつまらないと感じるときは、「技がなかなか上達しないとき」「相手を上手に投げたり抑え込んだりできないとき」「体格差で勝ち負けが決まってしまうとき」「投げられて痛い思いをしたとき」などである。

(3) 教材の系統（目指す生徒像）



3 単元の目標

- (1) 技ができる楽しさや喜びを味わうとともに、伝統的な行動の仕方を身につけ仲間と協力して学習し、安全に留意して意欲的に練習や簡易試合ができるようにする。
- (2) 相手を投げるための技術的なポイントを見付けることができるようにする。
- (3) それぞれの投げ技に応じた「崩し」「体さばき」を身につけ、練習や簡易試合に生かすことができるようにする。
- (4) 柔道の特性や学び方、技術の系統性や構造を理解し、それぞれの投げ技に応じた練習の仕方が分かるようにする。

4 評価規準

おおむね満足	十分満足
<p>【関心・意欲・態度】 ○技の習得を通して柔道の楽しさを味わおうとしている。</p> <p>【思考・判断】 ○投げ技において、相手を投げるための方法を見付けている。</p> <p>【技能】 ○投げ技の「崩し」「体さばき」を身につけることができる。</p> <p>【知識・理解】 ○投げ技の身に付け方の技術的なポイントを理解している。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 ○技の習得を通して柔道の楽しさをより一層味わおうとしている。</p> <p>【思考・判断】 ○投げ技において、相手を効果的に投げるための方法を見付けている。</p> <p>【技能】 ○投げ技の「崩し」「体さばき」を身につけ、練習や簡易試合をすることができる。</p> <p>【知識・理解】 ○投げ技の身に付け方の技術的なポイントを十分に理解している。</p>

5 指導方針及び留意点

- (1) 相手への思いやりの心・感謝の心を育てるために、練習の段階から各場面で礼儀作法を繰り返し指導する。
- (2) 個人差を考慮するために、必要に応じて個別に基本動作を指導したり、技能習得段階に応じた指導をしたりする。
- (3) 怪我を防止したり、恐怖心を取り除き意欲的に取り組めるようにしたりするために、受け身練習の時間を十分に確保する。
- (4) 投げ技練習においては重大な怪我につながらないようにするために、いつも真剣に取り組むことや「引き手」を投げた後に離さないこと、不十分なときには投げないことなどを徹底させる。
- (5) 学習の見通しと意欲を高めさせるために、習得していく投げ技等を掲示物で提示する。
- (6) 安全かつ意欲的に学習に取り組めるようにするために、グループ編成では体重を測定して体格差に配慮する。
- (7) 技能の定着を図ったり、学習を振り返ったりできるようにするために、自己評価やアドバイスされたことなどを学習カードに記入させる。
- (8) 単なる力だけではない柔道の醍醐味を味わわせられるようにするために、「崩し」や「体さばき」の重要性を十分に理解させたり、繰り返しの練習で習得させる。
- (9) 投げ技がしっかりと身に付いていくようにするために、技術的なポイントを掲示物や視聴覚機材、図解体育などを使って明示するとともに、グループ学習が効果的に行われるようにアドバイスする視点を明確に指示する。
- (10) 投げ技の練習では、「体さばき」「崩し」を身に付けさせるために、グループ練習の場面を取り入れ学び合いをさせる。

(11) 人や壁への接触で怪我をしないようにするために、狭い施設であること常に頭に入
れさせたり、危ないときには周りの生徒が大きな声を出して止めさせたり、体で制止
させたりさせる。

6 単元計画 (全 11 時間)

時間	学習活動	支援	評価項目
導入 1 2	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2 年次の学習目標、 進め方を理解する。 ○ 1 年次の復習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 柔道衣の着方 ・ 礼法 ・ 受け身 ・ 固め技 ・ 投げ技 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度の学習を振り返らせ、 学習目標、進め方を説明し、 意欲的に学習に取り組めるよ うにする。 ○ 柔道衣の着方や帯のしめ方、 柔道衣のたたみ方は、ペアで 確認させ、間違っている生徒 についてはやり直しをさせて 正しくできるようにする。 ○ 受け身の必要性を伝え、師範 しながら繰り返し練習させ、 正しく習得できるようにす る。 ○ 固め技については形を確認し たあとに簡易試合をさせ、返 し方や逃げ方などができると うにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 柔道の特性や単元 の目標、学習の進 め方を理解してい る。(知識・理解) ○ 柔道の特性に関心 をもち、意欲的に 取り組もうとする。 (関心・意欲・態度) ○ 受け身や固め技が できる。(技能)
展開 3 4 5 6 7 8 本 時 は 5 / 11	<p>展開</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ねらい① 「崩し」「体さばき」 を身に付け、投げ技 を習得する</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 投げ技の「崩し」や 「体さばき」を理解 し、アドバイスの視 点を確認する。 ○ グループに分かれて、 投げ技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支え釣り込み足 (膝車) ・ 大腰 ・ 体落とし ・ 大外刈り ・ 大内刈り ・ 小内刈り 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体格を考慮してグループ編成 し、安全に意欲的にグループ 学習に取り組めるようにす る。 ○ 学習する投げ技をDVDで、 「崩し」「体さばき」を確認 する。 ○ 学習カードを利用し、アドバ イスされた良い点、改善点な どを書き留めさせ、投げ技が しっかりと身につくようにす る。 ○ 「崩し」や「体さばき」を師 範で示し、繰り返し練習させ たりしながら、身につけられ るようにする。 ○ グループ学習では、アドバイ スの視点を掲示物などで明記 し、生徒同士で効果的に投げ 技を習得できるようにする。 ○ 投げ技の練習に際しては、投 げる側の体勢が不十分なとき は投げないよう注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの投げ技 の「崩し」「体さ ばき」が理解して いる。 (知識・理解) ○ グループで協力し 合って練習に取り 組んでいる。 (関心・意欲・態度) ○ アドバイスの視点 を意識しながら練 習に取り組み、効 果的に投げる方法 を見つけている。 (思考・判断) ○ 「崩し」「体さば き」などの基本動 作をスムーズに行 い投げ技ができる。 (技能)

展開 9 10	<p>ねらい②</p> <p>約束練習・自由練習の実践的練習の中で投げ技を習得する</p> <p>○約束練習で、投げ技を反復練習する。</p> <p>○自由練習で、実践の中での投げ技を練習する。</p>	<p>○グループ学習で練習してきた投げ技を、約束練習や自由練習で試し、実践の中で投げる技術的なポイントをつかめるようにする。</p> <p>○審判のやり方を理解させ、約束練習や自由練習の中で、安全な進行と正しい判定ができるようにする。</p>	<p>○練習してきた投げ技を試すことができる。(技能)</p>
整理 11	<p>まとめ</p> <p>○投げ技のテストを行う。</p> <p>○学習を振り返り、学習カードをまとめる。</p>	<p>○投げ技の習得状況のテストを行い、賞賛しながら成就感が味わえるようにする。</p>	<p>○投げ技の「崩し」「体さばき」ができる。(技能)</p>

7 校内研修との関わり

本校の校内研修においては、目指す生徒像「ともに学び合い、新たな自己の課題を見出すことのできる生徒」の育成である。そのための方策として、①相互の意見や考えを深めるために、毎時間適所で意見交換の場を設定して少しずつでも学び合う意識を高めていく、②新たな自己の課題を見出すために、自己の能力をしっかりと確認させ、学習のねらいや個々の能力を明確にさせて学習に取り組ませる。また、学習資料で技能ポイントを提示していく、の2つの手だてを行うものである。

本単元においては、グループ学習による技能習得の場面でアドバイスの視点を明示し、グループの中で見合ってアドバイスポイントを意識した意見交流をしながら、目指す生徒像に迫ろうとするものである。

8 本時の学習

(1) ねらい

アドバイスの視点を明確にした学び合いを通して、「体落とし」を身に付けることができるようにする。

(2) 準備

学習カード、図解体育、アドバイスの視点を明示した掲示物

(3) 人権教育上の配慮事項

グループ学習を通して、助け合う意義を理解し心と心のつながりをもてるようにする。

(4) 展開

過程	学習活動	教師の支援（留意点）	評価の観点	時間
導入	<p>○準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁往復 10 ・体操 ・受け身 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道場の安全確認、生徒の健康状態の確認を行う。 ・柔道衣の着方、帯のしめ方を点検し、正しく着ていない生徒がいたら適宜指導する。 ・準備運動では、大きな声でしっかりと取り組むよう言葉かけする。 ・受け身のポイントを言葉で確認し、正しく反復練習させる。 		15分

	<p>○あいさつ ○前時の復習</p>	<p>・前時に学習した、「大腰」の「体さばき」「崩し」を確認し、ペアで投げの復習をする。</p>		
<p>展開</p>	<p>○「体落とし」の「崩し」「体さばき」を確認する</p> <p>○グループに分かれて練習と助言を繰り返して行う。</p>	<p>・体落としのイメージをつかませたり、「崩し」や「体さばき」を理解させるために、師範やDVDのスロー再生を使用する。</p> <p>・アドバイスの視点を周知徹底させるために、言葉だけでなく掲示物で明示する。 (アドバイスの視点・助言) 「崩し」右前すみ *引き手はへの字のように 「体さばき」右足前回りさばき *足はイチ、ニー、サン 「かけ」タイミング</p> <p>・前時を振り返りグループ学習の流れを確認する。</p> <p>①アドバイスの視点を言葉で確認 ②見るポイントの分担 ③かかり練習でのチェック ④約束練習でのチェック ⑤ミーティングでの全体の反省 ⑥最終の約束練習 ⑦学習カードへの記入：授業後</p> <p>・アドバイスの視点を意識させるために、グループを巡視し助言する。意識していない場合には、掲示物を参考にさせたり、身振り手振りで意識させたりする。</p> <p>・かかり練習では「崩し」「体さばき」ができていないか確認するために、投げる寸前で止めさせてチェックさせる。できていないところがあれば組み立て確認させる。</p> <p>・アドバイスする側の生徒には、気づいたことをその都度「取」の生徒に伝える。</p>	<p>○投げ技の習得に向け、グループでアドバイスの視点を意識して練習している。 (観察) <関・意・態> ○「体落とし」ができる。 (観察) <技能></p>	<p>20分</p>
<p>まとめ</p>	<p>○まとめ</p> <p>○あいさつ ・片付け</p>	<p>・グループでの練習成果を発表し合い、巡視でよくできていたペアに体落としを披露させ達成感を与え、「崩し」「体さばき」「かけ」などを全体で再確認する。</p> <p>・柔道衣を素早く、きれいにたたむことを心がけさせる。</p> <p>・大きな声ではっきりとしたあいさつを意識させ礼法を重んじる意識を高められるようにする。</p>		<p>15分</p>


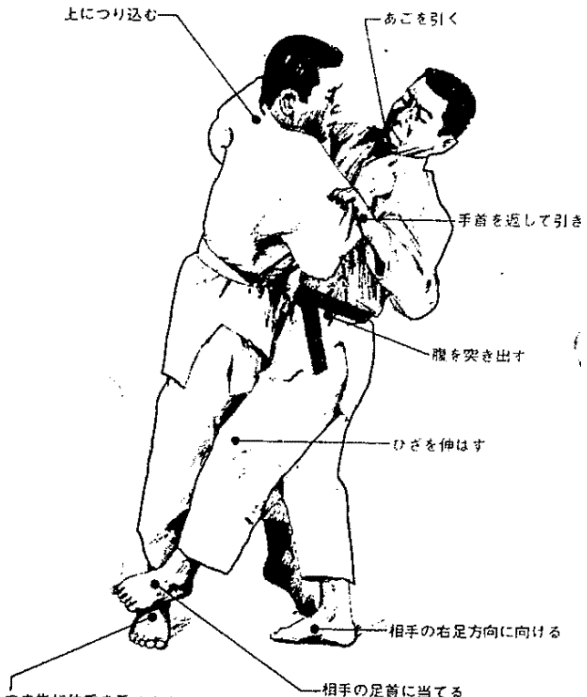
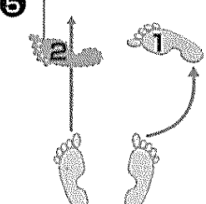
< 参考資料 >

投げ技学習カード①

() 年 () 組 名前 ()

月 日

○技術的なポイント

<h1 style="margin: 0;">「支え釣り込み足」</h1> 足技 * 関連 膝車	
<p>崩し (手) 受を右前すみに崩す</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>	<p>かけ (投げ) (きさえつりこみ足のポイント)</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>
<p>体さばき (足) 右足前さばき 足裏をつけない</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>	

○アドバイスの視点と自己評価

	アドバイスの視点	自己評価 (選ぶ)
崩し (手)	釣り手 (右手): 垂直に釣る	ダメ 1 2 3 4 完
	引き手 (左手): 肘を水平に引いて、自分の左腰につける	ダメ 1 2 3 4 完
体さばき (足)	イチ・ニー (右足) ヲ (左足裏を「受」足首に押し当てる)	ダメ 1 2 3 4 完
かけ (投げ)	イ (右足)、ニ (右足)、ヲ (左足かけ・引き手を引く)、ヨ (受け身)	ダメ 1 2 3 4 完

○学習を振り返って (できばえ、アドバイスされたことなど)


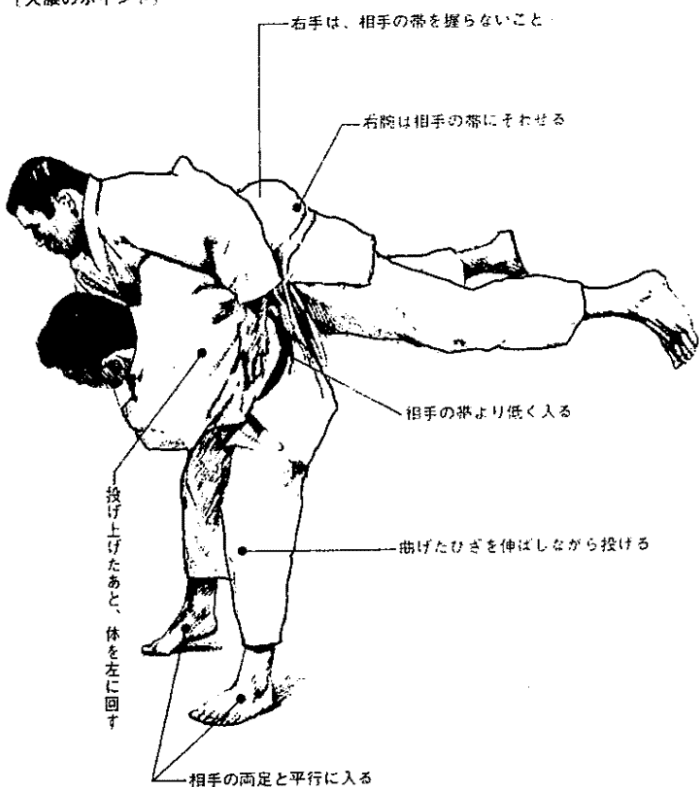
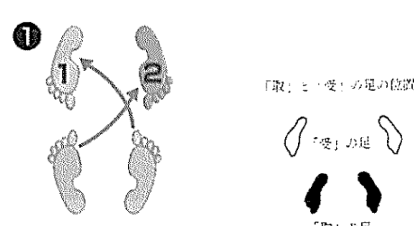
できばえの自己評価 (ダメ 1 2 3 4 完璧)	印
---------------------------	---

投げ技学習カード②

()年()組 名前()

月 日

○技術的なポイント

<h1 style="margin: 0;">「大腰」</h1>		腰技	* 関連 釣り込み腰、払い腰
<p>崩し(手) 受を前に崩す</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>	<p>かけ(投げ) [大腰のポイント]</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>		
<p>体さばき(足) 右足前回りさばき</p> <p>①</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>	<p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>		

○アドバイスの視点と自己評価

	アドバイスの視点	自己評価 (選ぶ)
崩し(手)	1-手で受けがつま先立ちになるように崩し、二で右手を離し受の左脇下から大きく回して抱え、サンで両手を引いて投げる。	ダメ 1 2 3 4 完
体さばき(足)	イチ(右足)、ニ(左足) * 足は相手の両足の内側	ダメ 1 2 3 4 完
かけ(投げ)	1-手(崩しと右足)、ニ(右手と左足)、サン(投げと受け身)	ダメ 1 2 3 4 完


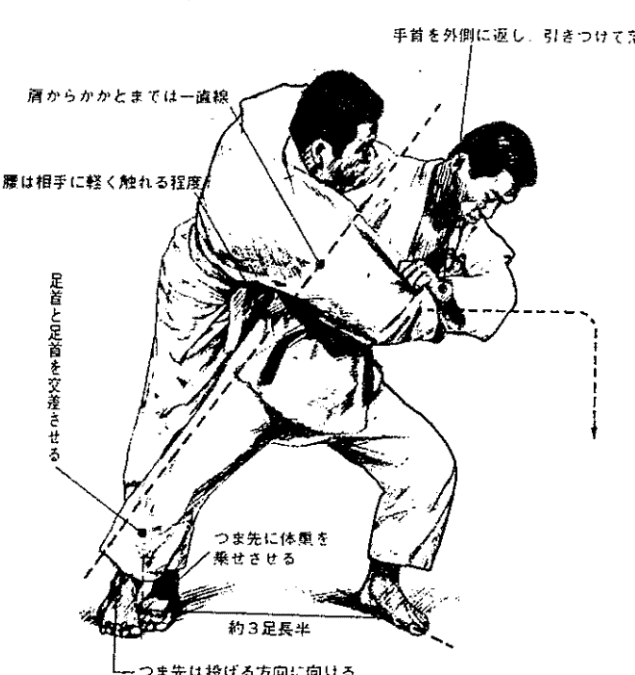
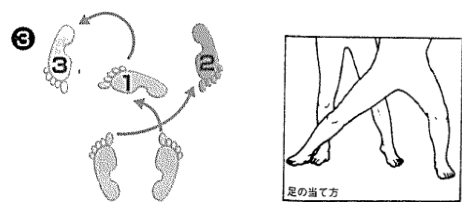
○学習を振り返って(できばえ、アドバイスされたことなど)

できばえの自己評価 (ダメ 1 2 3 4 完璧)	印
---------------------------	---

投げ技学習カード③

() 年 () 組 名前 ()
月 日

○技術的なポイント

<h1 style="margin: 0;">「体落とし」</h1> <h2 style="margin: 0;">手技</h2>	
<p>崩し（手） 受を右前すみに崩す</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>	<p>かけ（投げ） 〔体落としのポイント〕</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>
<p>体さばき（足） 右足前回りさばき</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>	<p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>

○アドバイスの視点と自己評価

	アドバイスの視点	自己評価（選ぶ）
崩し （手）	釣り手（右手）：垂直に釣る	ダメ 1 2 3 4 完
	引き手（左手）：「へ」の字のように、引き上げてから引き下ろす （小指を上に向けて引いた後に下ろす感じ）	ダメ 1 2 3 4 完
体さばき （足）	イチ（右足）、ニー（左足）、サン（右足）の順 （左右の足幅は畳半畳）	ダメ 1 2 3 4 完
かけ （投げ）	イ（右足）、ニ（左足と崩し）、 サ（右足で支えて投げる）、シ（受け身）	ダメ 1 2 3 4 完
	☆左足のふくらはぎを左膝を当て、跳ね上げる	ダメ 1 2 3 4 完

○学習を振り返って（できばえ、アドバイスされたことなど）

<p style="text-align: center;">できばえの自己評価（ダメ 1 2 3 4 完璧）</p>	<p>印</p>
---	----------

投げ技学習カード④

() 年 () 組 名前 ()

月 日

○技術的なポイント

「大外刈り」 足技

崩し（手）

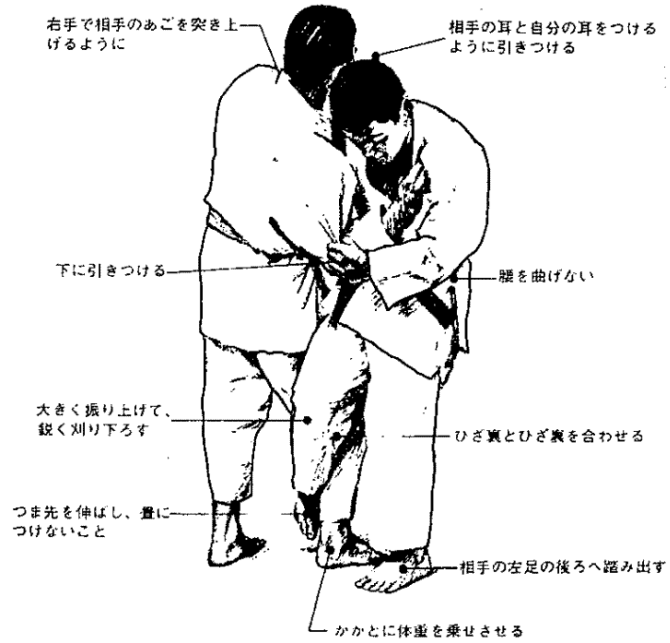
受を右後ろすみに崩す



自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧
メモ

かけ（投げ）

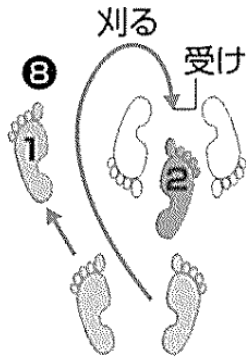
〔大外刈りのポイント〕



自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧
メモ

体さばき（足）

○左足を相手の右足の真横に踏み込む



自己評価
ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ

○アドバイスの視点と自己評価

	アドバイスの視点	自己評価（選ぶ）
崩し（手）	釣り手：垂直に釣る	ダメ 1 2 3 4 完
	引き手：前腕が水平になるように引き、受けの右腕を自分の胸の前に持ってきて右足の後ろに重心を崩す	ダメ 1 2 3 4 完
体さばき（足）	イチ（左足を受の右足横に踏み込む、右足を振り上げる） ニ-（右足を受の右足の外から後方に刈る）	ダメ 1 2 3 4 完
かけ（投げ）	イイ（左足を踏み込んで刈り足を上げる）、 ニ-（刈る）、サツ（受け身）	ダメ 1 2 3 4 完


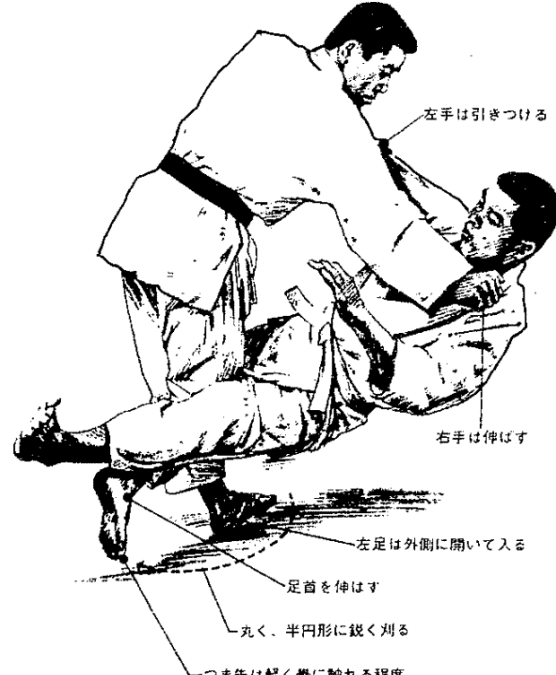

○学習を振り返って（できばえ、アドバイスされたことなど）

できばえの自己評価（ダメ 1 2 3 4 完璧）	印
--------------------------	---

投げ技学習カード⑤

() 年 () 組 名前 ()
月 日

○技術的なポイント

<h1 style="margin: 0;">「大内刈り」</h1> <h2 style="margin: 0;">足技</h2>	
<p>崩し（手） 受を真後ろに崩す</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>	<p>かけ（投げ） 〔大内刈りのポイント〕</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>
<p>体さばき（足） 右足前さばき 刈る</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>	<p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>

○アドバイスの視点と自己評価

	アドバイスの視点	自己評価（選ぶ）
崩し（手）	釣り手：肘を曲げ手首が相手の左耳付近にくるように釣る	ダメ 1 2 3 4 完
	引き手：引かずに相手の右腰付近に押し付ける	ダメ 1 2 3 4 完
体さばき（足）	イチ（右足を膝を十分に曲げ受の右足内側に踏み込む）ニ（左足を継ぐ）サ（右足のつま先を立て、右腰をひねってあてがう）	ダメ 1 2 3 4 完
かけ（投げ）	イチ（右足を受の右足内側に）、ニー（左足を自分の右足のかかと付近につく）左、サン（右足つま先立ちで右腰を当てる）、シヨ（受けの左足を刈る）	ダメ 1 2 3 4 完




○学習を振り返って（できばえ、アドバイスされたことなど）

できばえの自己評価（ダメ 1 2 3 4 完璧）	印
--------------------------	---

投げ技学習カード⑥

()年()組 名前()
月 日

○技術的なポイント

<h1 style="margin: 0;">「小内刈り」</h1> <h2 style="margin: 0;">足技</h2>	
<p>崩し（手）</p> <p>後に</p>  <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">受を右 ろすみ 崩す</p> <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>	<p>かけ（投げ）</p> <p>[小内刈りのポイント]</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>
<p>体さばき（足）</p> <p>左足後ろさばき</p> <p>⑥ 刈る</p>  <p>自己評価 ダメ 1 2 3 4 完璧 メモ</p>	

○アドバイスの視点と自己評価

	アドバイスの視点	自己評価（選ぶ）
崩し（手）	釣り手：上から押す	ダメ 1 2 3 4 完
	引き手：引き落とす	ダメ 1 2 3 4 完
体さばき（足）	イチ（左足）、ニー（左足で刈る）	ダメ 1 2 3 4 完
かけ（投げ）	イ（左足）、ニー（右足の刈りと崩し）	ダメ 1 2 3 4 完

○学習を振り返って（できばえ、アドバイスされたことなど）

できばえの自己評価（ダメ 1 2 3 4 完璧）	印
--------------------------	----------

まとめ

1, 授業研究会より (○よかった点、△改善点、・意見)

- 視聴覚教材にも限りがある。4人の学び合い活動は有効であったと思う。
- 「どういうところをアドバイスしたらよいか。視点を明確にしたことで、生徒は意識できたように感じる。アドバイスの視点がわかりやすい言葉でよかった。
- アドバイスの視点では、示範しながらの説明があつてとても良かった。
- カードに書かれているアドバイスの視点がよかった。それに基づいて生徒も活動できていた。
- 狭い空間をよく工夫していた。細かい指導、安全面の確保、運動量の確保がよかった。
- 掲示物、DVDの活用もねらいにせまるものであった。
- くずしを今まであまり意識していなかったが、とても参考になった。狭い道場をうまく活用していた。
- 先生の指示がよく通っている、規律ある生徒の行動に感動した。
- 体落としは難しい技である。生徒には経験がないので、視点を明確にしてあつて良かった。
- 次の時間は新しい技にチャレンジし、試合で倒したりという魅力をぜひ伝えてほしい。1つの技をきれいに行うことを目的にするのではなく、対戦する柔道の楽しさを教えてほしい。
- 柔道は他の競技と違って、中学校で初めて経験するという特徴がある。アドバイスの視点があつて良かった。
- △体落とし・・・手首「への字」というアドバイスの視点も良かったが、返すという表現があるとよいのでは。ひじをあげるではなく。
- △メモをとらせて、次にいかさせるのもよいのでは。
- △腰の上に乗せて、体落としをやっている子が多かった。→低い姿勢からやる必要性
 - ・アドバイスできる子、できない子がいる中で、できない子にどう学び合いに参加させるかが大切ではないか。学び合いでは、教師と生徒との信頼度、生徒同士の信頼度が非常に大切である。グループ編成を異質集団にしてリーダーとなる生徒を配置するなどの配慮をするのも良かったのでは。

2, 成果と課題

(成果)

アドバイスの視点を明確に提示したことで、柔道という中学に入ってから初めて学習する単元でも効果的に技能を身につけさせることができた。

アドバイスの視点を明確に提示することで、学び合いの場面で意識しながら学習を進めることができた。

(課題)

学び合いの場面においては、核となる生徒が少なかったために効果的な学び合いができなかった。このことから、今後は普段から話し合い活動を取り入れること、生徒同士、生徒と教師の信頼関係を深めること、核となる生徒をグループに配置することなどして、活発な学び合いができるようにしたい。

＜授業の視点＞

投げ技を習得していく場面で、アドバイスの視点を明確にした学び合いをすることは、技の習得 に有効であったか。

アドバイスの視点の確認

①資料から(カードの拡大コピー)



②師範



③ポイントの確認(釣り手を垂直に)



④DVDでのポイントの確認



学び合いの様子

⑤アドバイスし合う



⑥見合う様子



⑦練習の成果を発表する様子



⑧授業の振り返り



<授業の様子>

No.3

狭い柔道場での受け身練習



*体の向きを斜めにして、ぶつからないよう配慮



武道場の掲示物

学習カード



技のポイント



学年ごとの習得する技

1年生の学習	2年生の学習
<p>礼法</p> <p>寝技</p> <p>後受身 横受身 前屈受身</p> <p>互技</p> <p>乱取</p>	<p>互技</p> <p>乱取乱取 大腰 体落とし 大外刈り 大内刈り 小内刈り</p> <p>かわり練習 (打ち込み) 約束練習 (投げ込み) 自由練習 (乱取り)</p>

授業の流れ

1. 柔道衣の着用
2. 準備運動
 - ①ランニング壁5往復
 - ②体操
 - ③後ろ受身 10回
 - ④横受身 10回
 - ⑤前回り受身 (右前回り受け身4回、左前回り受け身4回)
3. 集合・あいさつ
本時の目標の確認
4. 活動
5. 整理運動
6. 集合・あいさつ
7. 柔道衣の脱衣(しっかりとたむこと)
8. カードの記入

中学校保健体育

1 学習評価の改善のポイント

- 評価の観点はいままでと変更はないものの、効果的・効率的な評価の改善に向けて、指導内容と評価の一体化を推進することが重要になる。
- 444（小学校から高等学校までの12年間を4学年毎に体系化）の系統性及び発達の段階のまとまりを踏まえて、観点の趣旨を設定している。
- 学力の3つの要素を踏まえ、以下のとおり、観点の趣旨を一部変更した。

評価の観点	趣 旨
運動や健康・安全への関心・意欲・態度	<u>運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。また、個人生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。</u>
運動や健康・安全についての思考・判断	<u>生涯にわたって運動に親しむことを見指して、学習課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫して。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。</u>
運動の技能	<u>運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。</u>
健康・安全についての知識・理解	<u>運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</u>

2 各観点の評価の趣旨について

(1) 運動や健康・安全への関心・意欲・態度

〈体育分野〉

- ・第1学年及び第2学年では、公正、協力、責任及び健康・安全に関する具体的事項を理解させた上で、学習課題に積極的に取り組もうとする様子を評価する。
- ・第3学年では、上記に加えて参画に関する具体的事項を理解させた上で、自己の課題に主体的に取り組もうとする様子を評価する。

〈保健分野〉

- ・内容に示された「個人生活における健康・安全」に関する関心や学習に取り組む意欲、学習の成果を課題の解決に生かそうとしている態度などについて実現状況を評価する。

- * 「関心・意欲・態度」は、各教科が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するものである。
- * 教科によって、評価の対象に特性があることに留意する必要がある。保健体育の体育分野においては、公正、協力、責任などを、育成すべき「態度」として学習指導要領に位置付けており、そのような指導内容に対応した学習評価が行われることとされている。
- * 保健分野では、内容についての学習活動に進んで取り組んでいる学習状況を評価できるようにした。

(2) 運動や健康・安全についての思考・判断

保健体育科では「思考・判断・表現」ではなく、「思考・判断」と示している。

これは各教科の内容等に即して思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて表現したことを評価する。

〈体育分野〉

- ・基礎的な知識や技能を活用して、学習課題への取り組み方を工夫できるようにする活動場面の設定が重要である。その上で、「課題を見付けている」などの実現状況の評価する。
〈保健分野〉
- ・個人生活における健康・安全に関する知識を活用し、自他の健康・安全に関する課題の解決を目指して科学的に考え、判断し、それらを表している場面の設定が求められる。その上で、例えば、内容について思考・判断したことを説明している状況などを評価する。

- * 体育分野では、思考・判断した結果としての表現は言語活動よりも運動の場づくりや練習方法の工夫などが多いことから「思考・判断」の中に表現を含んでいる。
- * 保健分野では、内容について科学的に「思考・判断」したことを、言語活動で「表現」している学習状況の評価できるように整理した。

(3) 運動の技能

- 〈体育分野〉
- ・発達の段階に応じて系統的に指導すべき動きやゲームの様相が例示されているので、適切に指導内容を選択し、それらの動きの出来映えを評価する。

- * 身体能力（技能＋体力）を評価することではない。
- * 「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価することが適当である。
- * 学習指導要領の指導内容として、例えば、創作ダンスにおいては「動きに変化を付けて即興的に表現したり」等が規定されている。このような場合の「表現」は、保健体育における技能を示すものであることから、現在「運動の技能」で評価しており、今後も「技能」の観点で評価することが適当である。

(4) 健康・安全についての知識・理解

- 〈体育分野〉
- ・運動の行い方や自主的な学習を継続する上で必要となる基礎事項を学習活動に関連させ指導し、「～理解している」様子を発言や学習ノートから評価する。
- 〈保健分野〉
- ・「個人生活における健康・安全」について、基礎的な事項を理解している様子を評価することになるが、単なる暗記ではなく課題の解決に役立つ理解になるよう配慮することが大切である。

- * 保健分野では、「知識・理解」については、内容について理解したことを発言や記述している学習状況の評価できるように整理した。

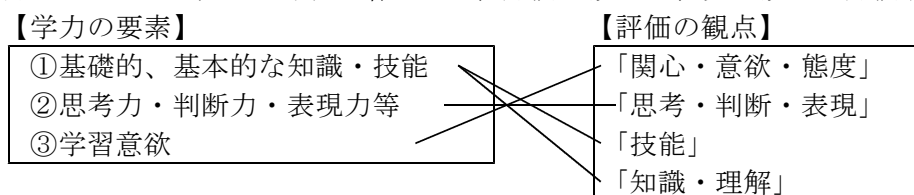
(5) その他配慮事項

- ・信頼性、妥当性のある評価ができるよう評価規準を作成する。
- ・指導と評価を一体的に進めるため、指導計画に評価計画を適切に位置付ける。
- ・生徒の自己評価や相互評価の機会を適切に取り入れ、言語活動の充実を図る。
- ・効果的・効率的な評価を目指して、内容の精選及び評価カードや補助簿等を工夫する。

3 「評価規準の作成のための参考資料」について

○評価の観点についての全体の変更ポイント

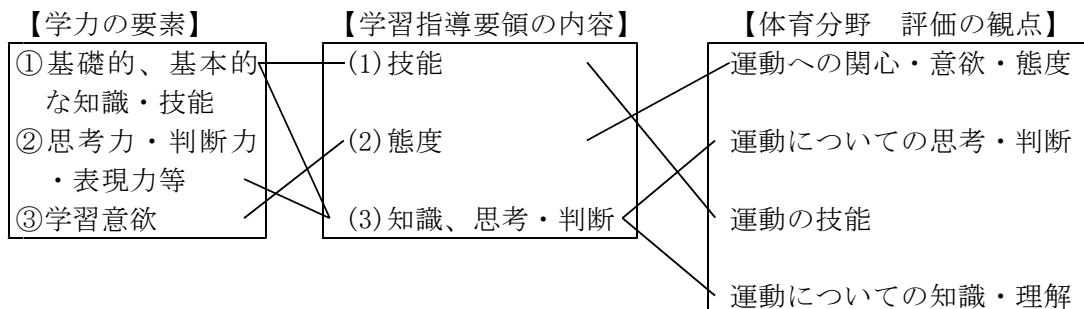
- ・学校教育法で示された学力の要素を踏まえて、評価の観点は、次の観点で評価する。



- 1) 観点の順序性は、重要度を示すものではなく、すべてが同様に重要な要素である。
- 2) ここでいう表現力とは、教科名等に用いる「表現」を指すものではない。
- 3) これまで、技能で評価していた内容は引き続き技能として評価する。

○体育の分野観点の変更について

- ・体育分野の「評価の観点」は、学習指導要領の体育の分野で示した内容(1)技能、(2)態度、(3)知識、思考・判断に変更されるわけではないので、学力要素の(学校教育法)、体育の分野で示した内容(学習指導要領)、評価の観点を混同しない。



例：第1学年及び第2学年(1)「A 体づくり運動」の評価規準の設定例

- ア 体ほぐしの運動では、心と体の関係に気付き、体の調子を整え、仲間と交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うこと。
- イ 体力を高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせて運動の計画に取り組むこと。

運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・分担した役割を果たそうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしのねらいである「心と体の関係に気付く」、「体の調子を整える」、「仲間と交流する」ことを踏まえて、課題に応じた活動を選んでいる。 ・関節や筋肉の働きに合った合理的な運動の行い方を選んでいる。 ・ねらいや体力に応じて効率よく高める運動例やバランスよく高める運動例の組み合わせ方を見付けている。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ・仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点を当てはめている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の意義について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・体づくり運動の行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・運動の計画の立て方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。

*なお、「体づくり運動」の体ほぐしの運動は、技能の獲得・向上を直接のねらいとするものではないこと、体力を高める運動は、運動の計画を立てることが主な目的となることから、運動の技能は設定せず、「体づくり運動」については、「運動についての思考・判断」に整理している。

〈保健分野〉

- 中学校の保健分野については、内容のまとまりと大項目が一致するので、評価規準の設定例は、中項目レベル(ア、イ、ウ・・・)の評価規準となる。
- 学習指導要領及び学習指導要領解説に示された目標及び内容等を基本に、観点ごとに学習状況を評価しやすい言葉に整理されている。
- 3つの観点について、評価する要素の重複を避けるように整理されている。
 - ・「関心・意欲・態度」については、内容について学習活動に進んで取り組んでいる学習状況を

評価できるように整理されている。

- ・「思考・判断」については、内容について実践的に「思考・判断」したことを、言語活動で「表現」している学習状況を評価できるように整理されている。
- ・「知識・理解」については、内容について理解したことを発言や記述している学習状況を評価できるように整理されている。

○効率的・効果的な評価を目指して、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」については、観点の項目数を2つに絞り込んで示した。また、1時間で1～2観点到に評価を絞り込むよう工夫した。

例：第2学年「健康と環境」の評価規準の設定例

- ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。
- イ 飲料水や空気は、健康と密接なかわりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。
- ウ 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・健康と環境について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。・健康と環境について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・健康と環境について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。・健康と環境について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	<ul style="list-style-type: none">・身体的环境に対する適応能力や至適範囲について理解したことを言ったり、書き出したりしている。・飲料水や空気の衛生的管理について理解したことを言ったり、書き出したりしている。・生活に伴う廃棄物の衛生的管理について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

*保健領域のため、運動の技能の評価の観点は無い。

*関心・意欲・態度は、一つ目が個人の活動をイメージしたもの、二つ目が集団の活動をイメージしたものとなっている。

評価規準の作成のための参考資料
(中学校)

平成22年11月

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

評価規準の作成のための参考資料

はじめに

平成20年3月に告示された中学校学習指導要領は、平成24年度から全面実施されます。

新しい学習指導要領のねらいを実現するためには、各学校における生徒や地域の実態等に応じた適切な教育課程の編成・実施、指導方法等の工夫が重要です。また、学習指導要領に示す内容が生徒一人一人に確実に身に付いているかどうかを適切に評価し、その後の学習指導の改善に生かしていくとともに学校の教育活動全体の改善に結び付けていくことが重要です。

この新しい学習指導要領の下での学習評価については、平成22年3月の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告では、目標に準拠した評価を着実に実施することとされています。

国立教育政策研究所教育課程研究センターにおいては、この報告を受け、平成22年5月から、評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究を開始し、このたび、その成果をとりまとめ本資料を作成しました。

本資料は、各学校において評価規準を設定する際の参考として役立てていただくことを目的として、学習指導要領の各教科等の目標、学年（分野）別の目標及び内容、文部科学省の学習評価及び指導要録の改善通知に示された評価の観点及びその趣旨等を踏まえ、評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例を示しています。

各学校におかれては、本資料や、都道府県教育委員会等の示す評価に関する資料を参考としながら評価規準を設定し、観点別学習状況の評価を適切に行うことを期待します。

最後に、本調査研究協力者の方々をはじめとして本書の作成にご協力くださった方々に心から感謝の意を表します。

平成22年11月

国立教育政策研究所
教育課程研究センター長
神代 浩

第1編 総説

第1章 学習評価の在り方について

1 現行学習指導要領の下での学習評価

平成10年に告示された現行の学習指導要領（以下「現行学習指導要領」という。）は、完全学校週5日制の下、①基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、②自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、③たくましく生きるための健康や体力など「生きる力」を育成することを基本的なねらいとしている。

このようなねらいを実現するための児童生徒の学習の評価の在り方について、平成12年12月に、教育課程審議会から「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」の答申が出された。

同答申においては、観点別学習状況の評価を基本とする従前の評価方法を発展させ、目標に準拠した評価を一層重視するとの基本的な考え方に立ち、指導要録における各教科の学習の記録の取扱いについて、観点別学習状況の評価の基本とすることを維持するとともに、評定を目標に準拠した評価に改めることとされた。また、児童生徒一人一人のよさや可能性、進歩の状況などを積極的に評価していく観点から、新設された「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄において、個人内評価を一層充実していくこととされた。

同答申における「指導要録の取扱い」の主な内容は、以下のとおりである。

- 現行学習指導要領の下においても、目標に準拠した評価である観点別学習状況の評価を基本とし、従前の四つの観点により、実現の状況を3段階で評価することを基本的に維持すること。
- 評定については、従前の指導要録の考え方を更に発展させ、観点別学習状況の評価の場合と同様、目標に準拠した評価に改め、また、従前と同様に、小学校第3学年以上において3段階、中学校の必修教科においては5段階で行うこと。

同答申を受け、文部科学省においては、各学校の指導要録の作成の参考となるよう、現行学習指導要領の下での指導要録に記載する事項等を取りまとめ、平成13年4月に「小学校児童指導要録、中学校生徒指導要録、高等学校生徒指導要録、中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校、聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録、中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善等について」の通知（以下「指導要録の改善通知」という。）

を発出した。指導要録の改善通知における各教科及び総合的な学習の時間についての主な改正内容は、以下のとおりである。

- 各教科の評定について、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るなどの観点から、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価することに改める。
- 「総合的な学習の時間」について、各学校で評価の観点を定めて、評価を文章記述する欄を新たに設ける。

平成15年10月に、中央教育審議会から出された「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」の答申を踏まえ、同年12月に学習指導要領が一部改正された。

総合的な学習の時間については、各学校において、総合的な学習の時間の目標及び内容を定めるとともに、当該目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示す全体計画を作成することなどが学習指導要領の総則に明記された。

2 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会においては、教育基本法等の改正を踏まえ、学習指導要領全体の見直しについて審議が行われ、平成20年1月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」の答申が出された。

同答申に基づき、平成20年に告示された新しい学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）においては、「生きる力」をはぐくむことが引き続き重要であることが明確にされた。

また、同答申では、学習評価の改善について「学校や教師は指導の説明責任だけではなく、指導の結果責任も問われていることを前提としつつ、評価の観点並びにそれぞれの観点の評価の考え方、設定する評価規準、評価方法及び評価時期等について、今回の学習指導要領改訂の基本的な考え方を踏まえ、より一層簡素で効率的な学習評価が実施できるような枠組みについて、更に専門的な観点から検討を行う」こととされた。

これを受け、教育課程部会の下に児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループが設置され、平成22年2月に教育課程部会において中間まとめが報告された。さらに、一般の方々からの意見聴取等も踏まえ、引き続き審議が行われ、教育課程部会において平成22年3月に「児童生徒の学習評価の在り方について」の報告（以下「報告」という。）がとりまとめられた。

報告では、学習評価の改善に係る3つの基本的な考え方が示された。

- 目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価や評定の着実な実施
- 学力の重要な要素を示した新学習指導要領等の趣旨の反映
- 学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進

新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、児童生徒一人一人の資質や能力をより確かにはぐくむようにするため、目標に照らしてその実現状況をみる評価を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要であるとともに、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが重要である。

また、今回の観点別学習状況の評価の改善は、特に、「学力の重要な要素を示した新学習指導要領等の趣旨の反映」（同報告）と関連している。学校教育法の一部改正を受けて改訂された新学習指導要領の総則に示された学力の3つの要素を踏まえて、評価の観点に関する考え方が整理された結果、これまでの観点の構成と比べると、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となり、「技能・表現」が「技能」として設定されることとなった。

さらに、各学校や設置者の創意工夫を一層生かしていくことが求められており、各学校では、組織的な取組を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高めることが重要である。

3 新学習指導要領の下での指導要録における観点別学習状況、評定及び特別活動の記録

文部科学省においては、新学習指導要領の下での指導要録の作成の参考となるよう、平成22年5月11日付けで初等中等教育局長から「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録等の改善について（通知）」（以下「学習評価及び指導要録の改善通知」という。）を発出した。

学習評価及び指導要録の改善通知においては、前述の報告を受け、各設置者による指導要録の様式の決定や各学校における指導要録の作成の参考となるよう、学習評価を行うに当たっての配慮事項や、指導要録に記載する事項として、小学校、中学校ごとに各教科の学習の記録、特別活動の記録など各欄の記入方法等が示されるとともに、各学校における指導要録の作成に当たっての配慮事項等が示されている。その主な内容は以下のとおりである。

(1) 学習評価の改善に関する基本的な考え方について

学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要であり、新学習指導要領の下での学習評価の改善を図っていくためには以下の基本的な考え方に沿って学習評価を行うことが必要である。

- ① きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を引き続き着実に実施すること。
- ② 新学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。
- ③ 学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。

(2) 学習評価における観点について

新学習指導要領を踏まえ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」に評価の観点を整理し、各教科の特性に応じて観点を示しており、設置者や学校においては、これに基づく適切な観点を設定する必要がある。

学習評価及び指導要録の改善通知に示された評価の観点の趣旨については以下のように整理することができる。

① 「関心・意欲・態度」

「関心・意欲・態度」の観点は、これまでと同様、各教科の学習に即した関心や意欲、学習への態度等を対象としたものであり、その趣旨に変更はない。

② 「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」の観点のうち「表現」については、基礎的・

基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味している。

つまり「表現」とは、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としている。

③「技能」

「技能」の観点では、従前の「技能・表現」が対象としていた内容を引き継ぐことになる。これまで「技能・表現」については、たとえば社会科では資料から情報を収集・選択して、読み取ったりする「技能」と、それらを用いて図表や作品などにまとめたりする際の「表現」とをまとめて「技能・表現」として評価してきた。

今回の改訂で設定された「技能」については、これまで「技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む観点として設定されることとなった。

④「知識・理解」

「知識・理解」の観点は、これまでと同様、各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたものであり、その趣旨に変更はない。

学習評価及び指導要録の改善通知においては、各設置者が観点を設定する際に参考となるよう、各教科の評価の観点及びその趣旨並びにそれらを学年別（又は分野別）に示したものが提示されている。観点及びその趣旨等は、これまでと同様、各学校における評価規準の工夫・改善を図る際にも参考となるものである。

(3) 観点別学習状況及び評定の記入方法について

学習評価及び指導要録の改善通知に示された小学校児童指導要録及び中学校生徒指導要録における観点別学習状況及び評定の記入方法は、次のとおりである。

【小学校児童指導要録】

[各教科の学習の記録]

I 観点別学習状況

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、次のように区別して記入する。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：A

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B

「努力を要する」状況と判断されるもの：C

II 評定（第3学年以上）

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、次のように区別して記入する。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：3

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：2

「努力を要する」状況と判断されるもの：1

【中学校生徒指導要録】

(学習指導要領に示す必修教科の取扱いは次のとおり)

[各教科の学習の記録]

I 観点別学習状況（小学校児童指導要録と同じ）

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、次のように区別して記入する。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：A

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B

「努力を要する」状況と判断されるもの：C

II 評定

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、次のように区別して記入する。

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの：5

「十分満足できる」状況と判断されるもの：4

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：3

「努力を要する」状況と判断されるもの：2

「一層努力を要する」状況と判断されるもの：1

(4) 特別活動について

学習評価及び指導要録の改善通知には、学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って、各学校において評価の観点を定めることができるようにすることとし、各活動・学校行事ごとに評価することが示されている。

また、特別活動の記録の記入方法は、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入することが示されている。

第7章 保健体育

第1 教科目標、評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全 についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全 についての知識・理解
運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。また、個人生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	生涯にわたって運動に親しむことを目指して、学習課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 内容のまとめ

保健体育科においては、体育分野及び保健分野ごとに、学習指導要領に示された以下を内容のまとめとした。

体育分野は、「A 体づくり運動」、「B 器械運動」、「C 陸上競技」、「D 水泳」、「E 球技」、「F 武道」、「G ダンス」、「H 体育理論」を内容のまとめとした。

保健分野は、「(1) 心身の機能の発達と心の健康」、「(2) 健康と環境」、「(3) 傷害の防止」、「(4) 健康な生活と疾病の予防」を内容のまとめとした。

第2 内容のまとめごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

I 体育分野

第1学年及び第2学年

1 体育分野の目標

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする。
- (2) 運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。
- (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

2 体育分野の評価の観点の趣旨

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
運動の楽しさや喜びを味	運動を豊かに実践する	運動の合理的な実践を	各運動の特性や成り立

わうことができるよう、公正、協力、責任などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとする。	ための課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。	通して、勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツが心身の発達に与える効果についての考え方を理解している。
--	--	---	--

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

(1) 「A 体づくり運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。
 - ア 体ほぐしの運動では、心と体の関係に気付き、体の調子を整え、仲間と交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うこと。
 - イ 体力を高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせて運動の計画に取り組むこと。
- (2) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「A 体づくり運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
体づくり運動の楽しさや心地よさを味わうことができるよう、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を組み合わせるとともに、学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	/	体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解している。

【「A 体づくり運動」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・分担した役割を果たそうとしている。 ・仲間の学習を援助しよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしのねらいである「心と体の関係に気付く」、「体の調子を整える」、「仲間と交流する」ことを踏まえて、課題に応 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の意義について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・体づくり運動の行い方について、学習し

<p>うとしている。 ・健康・安全に留意している。</p>	<p>じた活動を選んでい る。 ・関節や筋肉の働きに 合った合理的な運動 の行い方を選んでい る。 ・ねらいや体力に応じ て効率よく高める運 動例やバランスよく 高める運動例の組み 合わせ方を見付けて いる。 ・仲間と協力する場 面で、分担した役割 に応じた活動の仕方 を見付けている。 ・仲間と学習する場 面で、学習した安全 上の留意点を当ては めている。</p>	<p>た具体例を挙げてい る。 ・運動の計画の立て 方について、理解し たことを言ったり書 き出したりしている。</p>
-----------------------------------	---	--

※ なお、「体づくり運動」の体ほぐしの運動は、技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないこと、体力を高める運動は、運動の計画を立てることが主な目的となることから、運動の技能は設定せず、(1) 運動については、主に「運動についての思考・判断」に整理している。

(2) 「B 器械運動」

【学習指導要領の内容】

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。

イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。

ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。

エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。

(2) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする事、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

(3) 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「B 器械運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、よい演技を認めようとする事、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	器械運動を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	器械運動の特性に応じた技を身に付けている。	器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。

【「B 器械運動」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・よい演技を認めようとしている。 ・分担した役割を果たそうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 ・課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 ・学習した技から、「はじめ—なか—おわり」などの構成に適した技の組み合わせ方を見付けている。 ・仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。 ・仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点を当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動では、回転系や巧技系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。 ・鉄棒運動では、支持系や懸垂系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。 ・平均台運動では、体操系やバランス系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。 ・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ・技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・器械運動に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。

(3) 「C 陸上競技」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。
 - ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ること、長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ること、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すこと。
 - イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶこと。
- (2) 陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「C 陸上競技」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
陸上競技の楽しさや喜びを味わうことができるよ	陸上競技を豊かに実践するための学習課題に	陸上競技の特性に応じた、基本的な動きや効	陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行

う、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	応じた運動の取り組み方を工夫している。	率のよい動きを身に付けている。	い方、関連して高まる体力を理解している。
--	---------------------	-----------------	----------------------

【「C 陸上競技」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 ・分担した役割を果たそうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術を身に付けるため運動の行い方のポイントを見付けている。 ・課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ・学習した安全上の留意点を他の練習や競争場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることができる。 ・長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ることができる。 ・ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。 ・走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶことができる。 ・走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・陸上競技に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。

(4) 「D 水泳」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、泳法を身に付けることができるようにする。
 - ア クロールでは、手と足、呼吸のバランスをとり速く泳ぐこと。
 - イ 平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり長く泳ぐこと。
 - ウ 背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。
 - エ バタフライでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。
- (2) 水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「D 水泳」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
水泳の楽しさや喜びを味わうことができるよう、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	水泳を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	水泳の特性に応じた泳法を身に付けている。	水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。

【「D 水泳」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・水泳の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 ・分担した役割を果たそうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 ・水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・泳法を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ・課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 ・学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロールでは、手と足、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができる。 ・平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり長く泳ぐことができる。 ・背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。 ・バタフライでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。

※ 内容の取扱いに「泳法との関連において水中からのスタート及びターンを取り上げる」としてしているので、技能の一部としてこれらを指導する場合は、生徒の技能・体力の程度、施設の状況等を考慮した上で、学習指導要領解説を参考に各学校において評価規準を設定する。

(5) 「E 球技」

【学習指導要領の内容】

- 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。
 - ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること。
 - ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。
 - ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開すること。
- 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配る

ことができるようにする。

(3) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「E 球技」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとするなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	球技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	球技の特性に応じて、ゲームを展開するための基本的な技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。

【「E 球技」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 フェアなプレイを守ろうとしている。 分担した役割を果たそうとしている。 作戦などについての話合いに参加しようとしている。 仲間の学習を援助しようとしている。 健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 自己やチームの課題を見付けている。 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴール型では、ゴール前での攻防を展開するためのボール操作と空間に走り込むなどの動きができる。 ネット型では、空いた場所をめぐる攻防を展開するためのボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きができる。 ベースボール型では、攻防を展開するための基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 球技の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 球技に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

(6) 「F 武道」

【学習指導要領の内容】

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。

ア 柔道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開すること。

イ 剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること。

ウ 相撲では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、押ししたり寄りたりするなどの攻防を展開すること。

(2) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。

(3) 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「F 武道」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
武道の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	武道を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	武道の特性に応じて、攻防を展開するための基本動作や基本となる技を身に付けている。	武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。

【「F 武道」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・ 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ・ 分担した役割を果たそうとしている。 ・ 仲間の学習を援助しようとしている。 ・ 禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ・ 課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・ 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 ・ 学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柔道では、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができる。 ・ 剣道では、打ったり受けたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができる。 ・ 相撲では、押ししたり寄りたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ・ 武道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・ 技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・ 武道に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 ・ 試合の行い方について学習した具体例を挙げている。

(7) 「G ダンス」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流ができるようにする。
- ア 創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。
- イ フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。
- ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせて、リズムに乗って全身で踊ること。
- (2) ダンスに積極的に取り組むとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「G ダンス」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	ダンスを豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	ダンスの特性に応じて、交流ができるよう、イメージをとらえた表現や踊りをするための動きを身に付けている。	ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解している。

【「G ダンス」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。 ・よさを認め合おうとしている。 ・分担した役割を果たそうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定している。 ・課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・発表の場面で、仲間のよい動きや表現などを指摘している。 ・学習した安全上の留意点を仲間と学習する場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊るための動きができる。 ・フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊るための動きができる。 ・現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせて、リズムに乗 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの特性について、学習した具体例を挙げている。 ・踊りの由来について、学習した具体例を挙げている。 ・表現の仕方について、学習した具体例を挙げている。 ・ダンスに関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。

		って全身で踊るための動きができる。	
--	--	-------------------	--

(8) 「H 体育理論」

【学習指導要領の内容】

- (1) 運動やスポーツが多様であることについて理解できるようにする。
- ア 運動やスポーツは、体を動かしたり、健康を維持したりするなどの必要性や、競技に応じた力を試すなどの楽しさから生みだされ発展してきたこと。
 - イ 運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えることなどの多様なかかわり方があること。
 - ウ 運動やスポーツには、特有の技術や戦術があり、その学び方には一定の方法があること。
- (2) 運動やスポーツの意義や効果などについて理解できるようにする。
- ア 運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果が期待できること。
 - イ 運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。
 - ウ 運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があること。

【「H 体育理論」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて関心をもち、学習に積極的に取り組もうとしている。	運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて、学習した知識を活用したり応用したりしている。	/	運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて理解している。

【「H 体育理論」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
・運動やスポーツが多様であることについて、(情報を集めたり、意見を交換したりするなどの)活動を通して、学習に積極的に取り組もうとしている。	・運動やスポーツが多様であることについて、出された意見や集めた情報を分析したり、整理したりしている。	/	・運動やスポーツの必要性和楽しさについて、言ったり書き出したりしている。 ・運動やスポーツへの多様なかかわり方について、言ったり書き出したりしている。 ・運動やスポーツの学び方について、言ったり書き出したりしている。
・運動やスポーツの意義や効果などについて、(情報を集めたり、意	・運動やスポーツの意義や効果などについて、出された意見や	/	・運動やスポーツが心身に及ぼす効果について、言ったり書き

見を交換したりするなどの) 活動を通して、学習に積極的に取り組もうとしている。	集めた情報を分析したり、整理したりしている。	/	出したりしている。 ・運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果について、言ったり書き出したりしている。 ・安全な運動やスポーツの行い方について、言ったり書き出したりしている。
---	------------------------	---	---

第3学年

1 体育分野の目標

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、知識や技能を高め、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。
- (2) 運動を適切に行うことによって、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達を図る。
- (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。

2 体育分野の評価の観点の趣旨

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとする。	生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、自己の状況に応じて体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義の考え方を理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

(1) 「A 体づくり運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。
 - ア 体ほぐしの運動では、心と体は互いに影響し変化することに気付き、体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うこと。
 - イ 体力を高める運動では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。
- (2) 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとするなど、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「A 体づくり運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
体づくり運動の楽しさや心地よさを味わうことができるよう、体力の違いに配慮しようとする事、自己の責任を果たそうとする事などや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てるとともに、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	/	運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。

【「A 体づくり運動」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・体力の違いに配慮しようとしている。 ・自己の責任を果たそうとしている。 ・互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしのねらいを踏まえて、自己の課題に応じた活動を選んでいる。 ・ねらいや体力の程度に応じて強度、時間、回数、頻度を設定している。 ・自己の責任を果たす場面で、ねらいに応じた活動の仕方を見付けている。 ・仲間と学習する場面で、体力の違いに配慮した補助の仕方などを見付けている。 ・実生活で継続しやすい運動例を選んでいる。 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を継続する意義について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・運動を安全に行う上で必要となる体の構造について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・運動の原則があることについて、理解したことを言ったり書き出したりしている。

※ なお、「体づくり運動」の体ほぐしの運動は、技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないこと、体力を高める運動は、運動の計画を立てることが主な目的となることから、運動の技能は設定せず、(1) 運動については、「運動についての思考・判断」に整理している。

(2) 「B 器械運動」

【学習指導要領の内容】

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技することができるようにする。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。

イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。

ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。

- エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。
- (2) 器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) 技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「B 器械運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、よい演技を讃えようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたって器械運動を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	器械運動の特性に応じて演技するための、自己に適した技を身に付けている。	技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、発表会や競技会の仕方を理解している。

【「B 器械運動」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 器械運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 よい演技を讃えようとしている。 自己の責任を果たそうとしている。 互いに助け合い教え合おうとしている。 健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の課題に応じて、学習する技の合理的な動き方の改善すべきポイントを見付けている。 自己の課題に応じて、適切な練習方法を選んでいる。 自己の技能・体力の程度に応じて、目指す技や技の組み合わせ方を見付けている。 仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。 健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 器械運動を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> マット運動では、回転系や巧技系の技で構成し演技するための、滑らかに安定した基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の技で構成し演技するための、滑らかに安定した基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。 平均台運動では、体操系やバランス系の技で構成し演技するための、滑らかに安定した基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の滑らかに安定した基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 器械運動に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 発表会や競技会の仕方について、学習した具体例を挙げている。

(3) 「C 陸上競技」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。
- ア 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにするなどして速く走ること、長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。
- イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶこと。
- (2) 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「C 陸上競技」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
陸上競技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたって陸上競技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	陸上競技の特性に応じた、各種目特有の技能を身に付けている。	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解している。

【「C 陸上競技」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。 自己の責任を果たそうとしている。 互いに助け合い教え合おうとしている。 健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付けている。 自己の課題に応じて、適切な練習方法を選んでいる。 仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択に関して指摘している。 健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 陸上競技を継続して楽しむための自己に適したかわり方を 	<ul style="list-style-type: none"> 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにするなどして速く走ることができる。 長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。 ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができる。 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。 走り高跳びでは、リ 	<ul style="list-style-type: none"> 技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 陸上競技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。

	見付けている。	ズミカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶことができる。	
--	---------	------------------------------------	--

(4)「D 水泳」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、効率的に泳ぐことができるようにする。
- ア クロールでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。
- イ 平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。
- ウ 背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。
- エ バタフライでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。
- オ 複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすること。
- (2) 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事などや、水泳の事故防止に関する心得など健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「D 水泳」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
水泳の楽しさや喜びを味わうことができるよう、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事などや、水泳の事故防止に関する心得など健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたって水泳を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	水泳の特性に応じた、効率的な泳法を身に付けている。	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解している。

【「D 水泳」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 水泳の学習に自主的に取り組もうとしている。 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。 自己の責任を果たそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 選択した泳法について、自己の改善すべきポイントを見付けている。 自己の課題に応じて、適切な練習方法を選んでいる。 仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法を伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> クロールでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 水泳に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 運動観察の方法について、理解したこと

<ul style="list-style-type: none"> ・互いに助け合い教え合おうとしている。 ・水泳の事故防止に関する心得など健康・安全を確保している。 	<p>習方法の選択について指摘している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 ・水泳を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見つけている。 	<p>で長く泳いだり速く泳いだりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができる。 ・バタフライでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができる。 ・複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすることができる。 	<p>を言ったり書き出したりしている。</p>
--	--	---	-------------------------

※ 内容の取扱いに「泳法との関連において水中からのスタート及びターンを取り上げる」としているため、技能の一部としてこれらを指導する場合は、生徒の技能・体力の程度、施設の状況等を考慮した上で、学習指導要領解説を参考に各学校において評価規準を設定する。

(5) 「E 球技」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。
 - ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開すること。
 - イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。
 - ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開すること。
- (2) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「E 球技」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
<p>球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。</p>	<p>生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。</p>	<p>球技の特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。</p>	<p>技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。</p>

【「E 球技」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・フェアなプレイを大切にしようとしている。 ・自己の責任を果たそうとしている。 ・作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ・互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 ・仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ・作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための適切なかわり方を見付けている。 ・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 ・球技を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型では、ゴール前への侵入などから攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。 ・ネット型では、空いた場所をめぐる攻防を展開するための役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きができる。 ・ベースボール型では、攻防を展開するための安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 ・運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

(6) 「F 武道」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を身に付けることができるようにする。
 - ア 柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技、得意技や連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防を展開すること。
 - イ 剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開すること。
 - ウ 相撲では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手を崩し、投げたりひねったりするなどの攻防を展開すること。
- (2) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「F 武道」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<p>武道の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること</p>	<p>生涯にわたって武道を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。</p>	<p>武道の特性に応じて、攻防を展開するための得意技を身に付けている。</p>	<p>伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。</p>

<p>などや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。</p>		
--	--	--

【「F 武道」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 武道の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・ 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 ・ 自己の責任を果たそうとしている。 ・ 互いに助け合い教え合おうとしている。 ・ 健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の技能・体力の程度に応じた得意技を見付けている。 ・ 提供された攻防の仕方から、自己に適した攻防の仕方を選んでいる。 ・ 仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ・ 健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 ・ 武道を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柔道では、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技、得意技、連絡技のいずれかができる。 ・ 剣道では、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技、得意技のいずれかができる。 ・ 相撲では、相手を崩し、投げたりひねったりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技、得意技のいずれかができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・ 技の名称や見取り稽古の仕方について、学習した具体例を挙げている。 ・ 武道に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 ・ 運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・ 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

(7) 「G ダンス」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表ができるようにする。
 - ア 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方の変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ること。
 - イ フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ること。
 - ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。
- (2) ダンスに自主的に取り組むとともに、互いの違いやよさを認め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【「G ダンス」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう、互いの違いやよさを認め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたってダンスを豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	ダンスの特性に応じて、交流や発表ができるよう、イメージを深めた表現や踊りをするための動きを身に付けている。	ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを理解している。

【「G ダンス」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの学習に自主的に取り組もうとしている。 ・互いの違いやよさを認め合おうとしている。 ・自己の責任を果たそうとしている。 ・互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいテーマにふさわしいイメージを見付けている。 ・それぞれのダンスの特徴に合った踊りの構成を見付けている。 ・発表や仲間との交流の場面では、互いの違いやよさを指摘している。 ・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 ・ダンスを継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊るための動きができる。 ・フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊るための動きができる。 ・現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊るための動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの名称や用語について、学習した具体例を挙げている。 ・踊りの特徴と表現の仕方について、学習した具体例を挙げている。 ・ダンスに関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 ・交流や発表の仕方について、学習した具体例を挙げている。 ・運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。

(8) 「H 体育理論」

【学習指導要領の内容】

(1) 文化としてのスポーツの意義について理解できるようにする。

ア スポーツは文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要であること。

イ オリンピックや国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること。

ウ スポーツは、民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けていること。

【「H 体育理論」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
文化としてのスポーツの意義について、課題を解決するための活動などを通して、学習に自主的に取り組もうとしている。	文化としてのスポーツの意義について、学習した知識を活用したり応用したりしている。	/	文化としてのスポーツの意義について理解している。

【「H 体育理論」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 文化としてのスポーツの意義について、(意見を交換したり、自分の考えを発表したりするなどの)活動を通して、学習に自主的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化としてのスポーツの意義について、必要な情報を比較したり、分析したりしてまとめた考えを説明している。 	/	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会におけるスポーツの文化的意義について、言ったり書き出したりしている。 国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割について、言ったり書き出したりしている。 人々を結び付けるスポーツの文化的な働きについて、言ったり書き出したりしている。

II 保健分野

1 保健分野の目標

- (1) 個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 保健分野の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して科学的に考え、判断し、それらを表している。	心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

(1) 「心身の機能の発達と心の健康」(第1学年)

【学習指導要領の内容】

- (1) 心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。

ア 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。

イ 思春期には、内分泌の働きによって生殖にかかわる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。

ウ 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。

エ 精神と身体は、相互に影響を与え、かかわっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。

【「心身の機能の発達と心の健康」の評価規準に盛り込むべき事項】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
心身の機能の発達と心の健康について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	身体機能の発達、生殖にかかわる機能の成熟、精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

【「心身の機能の発達と心の健康」の評価規準の設定例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
心身の機能の発達と心の健康について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を	心身の機能の発達と心の健康について、健康に関する資料等で調べたことを基に、課題	身体機能の発達について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

<p>振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 	<p>や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心身の機能の発達と心の健康について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生殖にかかわる機能の成熟について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 精神機能の発達と自己形成について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 欲求やストレスの対処と心の健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。
--	---	--

(2)「健康と環境」(第2学年)

【学習指導要領の内容】

(2) 健康と環境について理解できるようにする。

ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

イ 飲料水や空気は、健康と密接なかわりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。

ウ 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。

【「健康と環境」の評価規準に盛り込むべき事項】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
健康と環境について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	健康と環境について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	身体的环境に対する適応能力や至適範囲、飲料水や空気の衛生的管理、生活に伴う廃棄物の衛生的管理について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

【「健康と環境」の評価規準の設定例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 健康と環境について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 健康と環境について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康と環境について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 健康と環境について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体的环境に対する適応能力や至適範囲について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 飲料水や空気の衛生的管理について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 生活に伴う廃棄物の衛生的管理について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

(3)「傷害の防止」(第2学年)

【学習指導要領の内容】

(3) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。

- ア 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などがかかわって発生すること。
- イ 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。
- ウ 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。
- エ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生等があること。

【「傷害の防止」の評価規準に盛り込むべき事項】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
傷害の防止について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解している。

【「傷害の防止」の評価規準の設定例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ・ 傷害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傷害の防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ・ 傷害の防止について、学習したこと自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ・ 交通事故などによる傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ・ 自然災害による傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ・ 応急手当について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

(4)「健康な生活と疾病の予防」(第3学年)

【学習指導要領の内容】

(4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。

- ア 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因がかかり合って発生すること。
- イ 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。また、食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、生活習慣病などの要因となること。
- ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれ

の要因に適切に対処する必要があること。

エ 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。

オ 健康の保持増進や疾病の予防には、保健・医療機関を有効に利用することがあること。また、医薬品は、正しく使用すること。

カ 個人の健康は、健康を保持増進するための社会の取組と密接なかわりがあること。

【「健康な生活と疾病の予防」の評価規準に盛り込むべき事項】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
健康な生活と疾病の予防について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活行動・生活習慣と健康、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、感染症の予防、保健・医療機関や医薬品の有効利用、個人の健康を守る社会の取組について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかわりを理解している。

【「健康な生活と疾病の予防」の評価規準の設定例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と疾病の予防について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ・健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と疾病の予防について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ・健康な生活と疾病の予防について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の成り立ちと疾病の発生要因について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ・生活行動・生活習慣と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ・感染症の予防について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ・保健・医療機関や医薬品の有効利用について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ・個人の健康を守る社会の取組について理解したことを言ったり、書き出したりしている。